

# 国立国会図書館



フランス寓話と浮世絵 高山 晶

国立国会図書館にない本

2012.3  
No. 612

# 国立国会図書館利用案内

## 東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話番号 03(3581)2331  
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)  
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>  
利用できる人 満18歳以上の方  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

### サービス時間

|         |   |           |                                   |
|---------|---|-----------|-----------------------------------|
| 開館時間    | 月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00<br>※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の閉室時間は17:00までです。     | 即日複写受付    | 月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00 |
| 資料請求受付★ | 月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00<br>※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室および古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。 | 後日郵送複写受付★ | 月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30 |

★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み／国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課 03(3581)2331 内線25211

## 関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3  
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)  
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>  
利用できる人 満18歳以上の方  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

### サービス時間

|         |                   |                  |                   |
|---------|-------------------|------------------|-------------------|
| 開館時間    | 月～土曜日 10:00～18:00 | 即日複写受付           | 月～土曜日 10:00～17:00 |
| 資料請求受付★ | 月～土曜日 10:00～17:15 | 後日郵送複写受付★        | 月～土曜日 10:00～17:45 |
| セルフ複写受付 | 月～土曜日 10:00～17:30 | ★登録利用者限定のサービスです。 |                   |

■見学のお申込み／国立国会図書館 関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

## 国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49  
電話番号 03(3827)2053  
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)  
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>  
利用できる人 どなたでも利用できます(ただし第一・第二資料室は満18歳以上の方)。  
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。  
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)  
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。  
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

### サービス時間

|               |                  |   |          |                   |
|---------------|------------------|---|----------|-------------------|
| 開館時間          | 火～日曜日 9:30～17:00 | ※1階子どものへや、世界を知るへやおよび3階メディアふれあいコーナー、本のミュージアムの利用時間は、開館時間と同じく9:30～17:00です。 |          |                   |
| 第一・第二資料室の利用時間 | 閲覧時間             | 火～土曜日 9:30～17:00  | 資料請求受付   | 火～土曜日 9:30～16:30  |
| 複写サービス時間      | 即日複写受付           | 火～日曜日 10:00～16:00   | 後日郵送複写受付 | 火～日曜日 10:00～16:30 |
|               | 複写製品引渡し          | 火～日曜日 10:30～12:00 13:00～16:30   |          |                   |

■見学のお申込み／国立国会図書館 国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

# 3 March

## CONTENTS

- 02 宙乗寿語六 <sup>そら</sup>宙飛ぶ役者たち  
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 04 フランス寓話と浮世絵 P.バルブトーの挿絵本たち 高山 晶
- 13 本の森を歩く 第8回 3・11から生まれた本
- 16 国立国会図書館のホームページが新しくなりました
- 18 さがすヒント 国立国会図書館サーチ、NDL-OPACの使い方
- 20 国立国会図書館にない本 戦前から占領期の出版物

---

### 29 館内スコープ

国会分館を詠む

### 30 本屋にない本

○『ここはじょんでえら 震災を経験した小千谷市十二平集落の道標』

○『千代田図書館蔵「内務省委託本」関係資料集』

### 32 NDL NEWS

○国際政策セミナー「世界経済の動向と日本の成長戦略」

○平成23年度書誌調整連絡会議

○平成23年度児童書総合目録事業運営会議

○おもな人事

### 34 お知らせ

○平成24年度国立国会図書館職員採用試験

○平成24年度図書館情報学実習生を募集します

○本の万華鏡（第9回）「江戸の花見—花爛漫—」

○新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

## 宙乗寿語六 そら 宙飛ぶ役者たち

伊藤 りさ

一枚の紙の上、さいころを振って出た目の数だけ駒を進め、ふりだしからあがりには達する順番を競う絵双六。いまでは正月くらいしか目にすることはないが、かつては大人も子どもも楽しめる日常的な遊びだった。また、双六が盛んに作られた江戸時代には、実際に遊ぶ以外に、盤面いっぱい広がる色彩豊かな双六の世界を一幅の絵として堪能するという享受の仕方があったようである。今月紹介する「宙乗寿語六」(写真1)もその一つだろう。

双六には、バックギャモンのような盤双六と、紙に多くの升目を描き、さいころの目によって駒を進めていく絵双六とがある。盤双六は奈良時代に日本に伝来したが、戦国時代に入ったころから衰退し、江戸時代末期には急速に姿を消した。もう一つの、我々になじみの深い絵双六は江戸時代に登場し、錦絵の興隆に伴って発達した。

絵双六には、「回り双六」と「飛び双六」とがある。ふりだしからあがりまで、升目に書かれた指示によって、時に目を飛び越えたり戻ったりしながらも、基本的には一筋に並べられた升目を順々にたどって進むのが回り双六で、ふつう「双六」と聞いて思い浮かぶのはこのタイプだろう。

一方、飛び双六は、升目(と便宜的に書くが、飛び双六では升目の形ではなく、写真1のように絵が直接に描かれているものが多い)が系統だって並んでおらず、さいころの目によって、盤面を埋め尽くすように配置された升目を飛び回るように駒を進めていく。中には、升の境目がわからないくらいびっしりと絵が描き込まれたもの、果ては駒の進め方の指示がない、名ばかりの「双六」も見受けられる。そういった「双六」は、描かれた人物が役者の似顔絵になっているものもあり、それらは双六盤に見立てた錦絵

と考える方がふさわしいようでもある。

「宙乗寿語六」は、宙を飛ぶ、あるいは高楼から下界を見下ろすような場面があったり、星、天人、天狗といった天空を飛翔するような役柄の歌舞伎の登場人物を、人気役者の似顔で描いた飛び双六である。それぞれの升目には短冊で役名と役者名が示されている。「上り」(写真1 中央上部)の二人には短冊がないが、一人は石川五右衛門(芝翫)、もう一人は祇園のおりつ(紫若)だろうか。五右衛門は四代目芝翫(写真2)の当たり役の一つである。

ふりだしは蝦蟇の背に乗る天竺徳兵衛。広げた巻物に、出たさいころの目と、進む升目(人物)が書いてある(写真3)。ふりだし以外の升目では、例えば写真4のように、特定の目に対して進む先の指示があり、それ以外の目は一回休みとなる。飛び双六では勝負の予想がつかないので、最初に「あがり」に達するのを競うというより、それぞれの駒が盤面を縦横無尽に飛び回る様や、飛んだ先の絵を楽しむ方が優先されただろう。そう考えると、「宙乗」という本図のテーマは、飛び双六にもっともふさわしいもののように思える。

ここに描かれる歌舞伎の登場人物がすべて実際の舞台上で空を飛ぶというわけではない。設定は雲の上であっても、振付だけでそれを表現する舞踊なども含まれている。実際には見られない「宙乗」場面を双六盤上で我々の眼前に実現した本作は、飛び双六の特性を十二分に生かした優作といえよう。

この双六に描かれた当代の人気役者が、実際の舞台上で一堂に会することはまずなかつただろう。まったく別の作品の登場人物に扮した人気役者が目を見合わせて火花を散らす——実際にはあり得ない舞台を、一幅の錦絵で堪能できるのもまた、本作の楽しみである。(いとう りさ 総務部総務課)



写真1

写真1 「宙乗壽語六」

登場する役名と役者名は、上から時計回りに、猫石精（田之助）、忠信（菊五郎）、岩藤（彦三郎）、うさぎ（訥升）、天人（三津五郎）、唐人（仲太郎）、奴だこ（菊五郎）、天竺徳兵衛（彦三郎）、榎木主水（訥升）、近江の源五郎（芝翫）、夜這星（太郎）、天狗の飛脚（仲蔵）、重太丸（米升）、夢想兵衛（九蔵）、牽牛（権十郎）、おり姫（紫若）。

写真2 「中村芝翫」 豊国画

「豊国画帖」（錦魁堂 文久元年（1861）刊）所収。〈請求記号 本別7-521〉 楽屋で髪をつける芝翫。

写真3 「宙乗壽語六」 ふりだし（中央下部の拡大）

写真4 「宙乗壽語六」 進む先の指示の例（右下部の拡大）



写真2



写真3



写真4

宙乗壽語六 国周画

越嘉 明治1（1868）年 1枚 89.2×50.0cm

[[双六]] 所収 <請求記号 本別9-27>

※東京本館古典籍資料室所蔵（冨山文庫）

※インターネットを通じて閲覧可能

参考文献

- 増川宏一著『すごろく1,2』（ものと人間の文化史 79-1,2）法政大学出版局 1995 <請求記号 KD958-E403>
- 加藤康子、松村倫子編著『幕末・明治の絵双六』国書刊行会 2002 <請求記号 KD958-G664>

# フランス寓話と浮世絵

P.バルブトーの挿絵本たち

高山 晶



「燕と小鳥たち」『ラ・フォンテーヌ寓話選』第1巻第3話 挿絵 河鍋暁翠画

先日、国際子ども図書館を見学させていただいた。ご案内くださった方々と一緒に、いちばん盛り上がったのは、「あっ！ これ、なつかしい」と、子どもの頃に読んだ本に出会ったとき。若い世代、働き盛り世代、そしてリタイア世代と、さまざまな年代だったので、同じ内容の本でも各世代で、「なつかしさ」に出会える本の装幀が微妙に異なっていた。

「私の頃は、このサイズのハードカバー」

「私のときは、まだソフトな表紙、もう少し小さくて」

「新しいのは、字も大きくて立派ですね。でも、挿絵は同じ……」

「なつかしさ」に会えるのは、どうも表紙、挿絵なのだ。さらに、本の佇まい、紙質、手触り、重さ、ときには匂いまでが、ふんわりとした記憶をダイレクトに突っつくのである。もちろん「本」なのだから、テキスト・データをふまえてのことなのだが。

ここでご紹介するのも、データを取り込んだら使用済み、という本ではない。リアルな紙資料、存在感たっぷりな「ハイブリッド」挿絵本である。刊行された時代は、明治20年代から大正にかけて、所は、東京であったり、パリであったり、挿絵の木版には京都で特注されたものもある。

# 1 ちりめん本<sup>1</sup>『ラ・フォンテーヌ寓話選 東京最良の絵師団による挿絵付き』

P.バルブトー監修 東京 1894年<sup>2</sup>

この欧文和装本に会いに行ったのは1990年代半ば、3月だったと思う。毎年のように大学の春休みを利用して、資料探しにフランスに出かけていた。場所は、パリ近郊ヌイユのアパルトマン。パリ市内の古書店をたたくと、すでに引退していた店主はフランス人ではなく、終戦直後の日本に占領軍将校として駐留していた、長身白髪のイギリス人であった。古書店を引きはらったときに、書物を少しだけ手元に残した、という。その「少し」のなかに、この本はあった。元英軍将校・元古書店主はちりめん本を見せながら「これは子ども向けだから丈夫にできている。ほら、破れたりしない」と、紙を引っばって見せた。プロなのだからまさかと思うが、ちりめん本は布製だと信じていたような気もする。手に取ると、持ちおもりする触感、視覚的には、「フランス語テキスト×和風挿絵」という異文化衝突みたいな取り合わせ。その本には不思議な魅力があった。

ラ・フォンテーヌ寓話はルイ14世治下のフランス17世紀の作品だが、今なお「現役」である。国語（フランス語）のクラスで暗誦のテーマなので、子どもや孫へのプレゼントにもなる。フランス文学のなかで最も多くの挿絵が描かれたテキストではないかといわれている。初版のショヴォー、19世紀のグランヴィル、20世紀にはシャガール

<sup>1</sup> ちりめん本関連記事は、大塚奈奈絵「テラコヤ（寺子屋）「日本」を発信した長谷川武次郎の出版」『国立国会図書館月報』(604/605) 2011.7/8 pp.4-17をご参照ください。

<sup>2</sup> *Choix de Fables de La Fontaine*, illustrées par un groupe des meilleurs artistes de Tokio, sous la direction de P. Barboutau. Tokio : Imprimerie de Tsoukidji-Tokio, 1894. <請求記号 W142.B2> 表紙のタイトル : Fables choisies de La Fontaine タイトルページ下部に欧文で「東京築地印刷所 発行者 曲田成」、奥付には「畫工 梶田半古 狩野友信 岡倉秋水 河鍋暁翠 枝貞彦」とあり。



写真1 『ラ・フォンテーヌ寓話選』第1巻表紙 梶田半古画

の挿絵本をはじめとして、340年余の間にフランスだけではなく世界中で、数えきれないほどの挿絵本が出版されている。そのなかで、1894（明治27）年に東京、築地で刊行された『ラ・フォンテーヌ寓話選』を、世界中の寓話本コレクターであるG.I.カールソンは、彼の2,500点にのぼるコレクションから選びぬいた9点の特筆すべき出版物のひとつにあげている<sup>3</sup>。

その理由は、<sup>きょうすい</sup>梶田半古、狩野友信、河鍋暁翠など日本人絵師の挿絵の美しさとインパクトは無論のことだが、選んだ計28の寓話の「動物づくし」にもある。寓話だから当たり前？ じつはそうではない。240ほどあるラ・フォンテーヌ寓話には、

<sup>3</sup> Carlson, Gregory I. Nine great moments in the history of published Fable illustration. Matsubara Hideichi(ed.). *Les animaux dans la littérature : Actes du Colloque de Tokyo de la Société Internationale Renardienne, du 22 au 24 juillet 1996, à l'Université Keio*. Tokyo : Keio University Press, 1997. <請求記号 KE185-A32> pp.105-124



写真2 「鳩と蟻」『ラ・フォンテーヌ寓話選』第2巻第5話 挿絵  
河鍋暁翠画  
<テキスト> (イソップ寓話にある「恩返し」テーマのラ・フォンテーヌ・バージョン) 溺れている蟻を救った鳩が、腹ペコの村人に弓で狙われたとき、助けた蟻に命を救われる。☆みんなに親切にしておこうね。大きな者(鳩)が小さな者(蟻)に助けられることもあるんだよ。

意外なほど人間くさいお話が多い。(ジュピター、死神など神々も含めた数字だが) 全タイトルの約40%が「人間もの」なのである。ところが日本生まれのこの本は「蟬と蟻」(第1巻第1話)から「魚たちと鶉」(第2巻第14話)まで、動物づくし。半古の表紙絵(前頁写真1)はさながら「登場動物」の集団肖像画で、テキストにも挿絵にも人影がとても薄い。たまに登場する人間は自然界のやっかいもの、主役の動物たちの敵役であったりする(写真2)。絵画などの主題としての「人間」をあくまでもヒエラルキーの頂点と考える、キリスト教圏、欧米の常識を覆すような本だったらしい。ラ・フォンテーヌ寓話から「人影が消えた」ことも、ちりめん本の手触りとあわせて、19世紀のフランスでは驚きとともに受け入れられたのだ。

なお、この本は、ちりめん加工されていない平紙本もあるし、鳥の子紙に挿絵が片面摺りされた豪華な版も刊行されている。

## 2 『J.-P. クラリス・ド・フロリアン 寓話選 日本人絵師による挿絵付き』 P.バルブトー監修 東京マルポン & フラマリオン社 1895年<sup>4</sup>

「恋の喜びは一瞬のもの 恋の哀しみは生涯つづく♪」と、エディット・ピアフが歌い、日本でも有名になったシャンソン「恋の喜び」(作曲：マルティニー)の作詞者が、フロリアンである。その生涯は、

ごく若い頃は順風満帆にみえたがフランス革命で投獄され、その後39歳の若さで亡くなっている。ときにほろ苦い味付けのフロリアンの寓話は、バステュー襲撃から3年後、ルイ16世の裁判開始の年に初版が刊行された。「現役」のラ・フォンテーヌには及ばないが、21世紀に入っても新しく出版されていて、フランスでは綿々と語り継がれている寓話である。

この本に出会ったのは、リュクサンブール公園に近いコンデ街の古書店。ショーウィンドーに、横長の『フロリアン寓話選』がうやうやしく飾ってある。「でも、何かおかしい。何かが違う……」今までに見たことのある本の表紙にはなかった縁飾りがあり、サイズが少し大ぶりなのだ。見せてもらおうと思ったら、ドアには「只今外出中」の厚紙。がちりと鍵がかかっている。営業時間なのに店主はお出かけ中で、「何時まで」なんて律儀なことは書いてない。ここは日本ではなくパリなのだ。でもやはりその本が気になって、しばらくしてその店に戻る。見せてもらおうと、保存状態がよかつたらしく、挿絵の色も美しい(次頁写真3、4)。表紙絵は、『ラ・フォンテーヌ寓話選』とは真逆の「人間づくし」登場人物大集合、第2巻の





上から 写真3 「ナイチンゲールと若君」『フロリアン寓話選』（横長版）第1巻第6話 挿絵 狩野友信画  
 <テキスト> 1羽のナイチンゲールが木陰で囀っていた。散歩中の若君は美しい声の主を捕らえようとするが、鳥は林の中に逃げてしまう。「宮殿の庭には雀たちがいくらでも飛んでくるというのに、ナイチンゲールだけは何故、言うことを聞かずに逃げるのか」と、怒った若君は問う。☆若君、愚か者たち（雀たち）は、宮殿に群がって参りますが、本当に価値ある者（ナイチンゲール）は探しに行かないと見つからないのでございます。

写真4 「香具師」『フロリアン寓話選』（横長版）第2巻第6話 挿絵 梶田半古画  
 <テキスト> 香具師がパリのボン・ヌフ（橋）のほとりで、大声をはりあげて何か売っている。それは、老若男女のあらゆる悩みを解消し、あらゆる願いを叶えてくれる効能あたたかな粉薬。（挿絵では、「妙薬を用ゆればかなはぬ事なし」という「不思議之妙薬」）☆粉薬の正体は、金粉（お金）でしたとさ。

縁飾りは、吉祥文様「葡萄に栗鼠」（武道に律す）。  
 とにかく凝っている。「ところで、」と店主がたずねた。「この本はいつ出版されたものだね？」タイトルページには“Tokio”という表記のほかに“Librairie Marpon & Flammarion...”とあって、パリの出版社住所まで摺られているのに、たしかに西暦の刊行年がない。奥付には日本語で「明治廿八年」と記されているのだが、これは、彼にとってはチンプンカンプンな記号なのだ。そうい

えば、ちりめん本のこの作品を所蔵しているフランス国立図書館のカタログでも“s.d.”（刊行年不詳）となっていた。

ところで、欧文和装本『フロリアン寓話選』は、わかっているだけでも4種類ある。大きく分けると2種類で、横に長いものと、縦長のもの。両方

4 *Fables choisies de J.-P. Claris de Florian, illustrées par des artistes japonais, sous la direction de P. Barboutau. Tokio : Kanemitsou Masa-o, 1895. <請求記号 W992-B2> 第1巻の奥付に「畫工 狩野友信 梶田半古」、第2巻の奥付に「畫工 狩野友信 梶田半古 久保田桃水」とあり。（日本語書名：『普魯利安諺解選集』）*

とも2巻本で、全部でおよそ100あるフロリアン寓話のうち28の同じ寓話が編まれていて、挿絵も同じ。しかし、横長グループと縦長グループでは、サイズや表紙絵がまるで異なっていて、さらに、頭が混乱するくらい寓話の順番がちがっている。表紙縁取りの有無、平紙本とちりめん本……内容は同じでも、装幀と表紙、サイズなどによって本は驚くほど変貌する。版によっては、挿絵に描かれている鳥の数がちがっていたり、カケスがカラスに変身していたりすることもある。摺師が鳥を一羽、白斑褐色にしたか、黒く摺ったかのちがいである。手摺りの本はおおらかで楽しい。

### 3 『日清戦争版画集 米僂、半古ほかによる』 東京 1896年<sup>5</sup>

錦絵を「折本」に仕立てた版画集。奥付に「著作者 佛國人 馬留武黨 東京市築地居留地五十一番館」の表記がある（「馬留武黨」はバルブトーの戯記）。

この折本をはじめて目にしたのは、ロンドンの美術系カレッジの図書室。カレッジの図書・教育部長は、資料の取置きをして、ロンドン地下鉄の乗り継ぎ方までメールで教えてくださった。2004年当時のWorldCat<sup>6</sup>検索では、アメリカの4図書館（うちひとつはウェストポイント陸軍士官学校）とロンドンのカレッジしか、この作品を所蔵しているところが見つからなかったのである。その後フランス国立図書館も所蔵していることがわかったが、フランス国立図書館所蔵本は、折本を場面ごとにカットして厚紙に貼ってあるので、ページを捲って歴史の展開を鑑賞できる「折本」とは、まるで異なった「紙芝居」仕様になっている。

梶田半古の表紙絵（写真5）には、夕日の沈む



写真5 『日清戦争版画集』表紙 梶田半古画

海辺を背景に子どもが7人描かれている。うち2人が取っ組み合いの喧嘩中、そして仲裁に入る子、見物をきめこんでいる子。これらの子どもたちのポーズは、戦中戦後を通してこの戦争に関わった国々を表しているようでもある。日清戦争当時は大流行だった戦争報道画の錦絵だが、外国人が日本人絵師に発注したのはとても珍しいという<sup>7</sup>。「馬留武黨」氏は1894（明治27）年から1896（明治29）年にかけて日本に滞在していたので、そうした錦絵が絵草紙屋で飛ぶように売れるのを目の当たりにしたにちがいない。この折本を捲っていくと、開戦前の日本特使と清国政府使者との会談から、沈む高陸号<sup>こうしやう</sup>、玄武門での一等卒の勲功、黄海の大海戦、戦中とは思えないほど長閑な金州城郊外、旅順攻略、そして下関講和条約締結の場面まで、14のシーンがひとこまひとこま、時間軸にそってドキュメンタリーのように展



写真6 『日清戦争版画集』見返し絵(巻尾) 絵師不詳(容斎派)

開する。巻尾の「見返し絵」(写真6)に描かれた荒波には迫力のなかに、戦いの後の静寂がある。上空に白い鳥の舞う「見返し絵」の荒海は、2005年にフランス国立図書館とプレスト市共催の「海、恐怖と魅惑」展に展示され、北斎の「グレイト・ウェイヴ(神奈川沖浪裏)」に比較されるくらい、高く評価された。しかし絵師の名は不詳。「容斎派」としかわかっていない。

#### 4 Pierre Barboutau ピエール・バルブトー 「馬留武黨」「びえる ばるぶと」氏について<sup>8</sup>

これらの風変わりな本たちをプロデュースしたフランス人、ピエール・バルブトー(1862-1916)は、同時代人が「いったい何者なのか?」と質問する

<sup>5</sup> *Guerre sino-japonaise, recueil d'estampes par Bei-sen, Han-ko, etc., chez Pierre Barboutau. Tokyo, 1896.* <請求記号 KC16-B20> 奥付に「発行者兼印刷者 金光正男」「畫工 久保田米僊 梶田半古 研齋永年 高橋松亭 富田秋香 苔石畫史」とあり、奥付の前ページに各場面についてのフランス語の短い解説が付けられている。

<sup>6</sup> アメリカのOCLC (Online Computer Library Center, Inc.) が維持管理する世界最大の総合目録 (<http://www.worldcat.org/>)。

<sup>7</sup> 詳しくは、クリストフ・マルケ「記録と記憶 日清戦争画像のなかの歴史」丹尾安典編「記憶と歴史 日本における過去の視覚化をめぐる」文部科学省オープン・リサーチセンター整備事業シンポジウム報告書 早稲田大学津八郎記念博物館 2007 <請求記号 GB411-J144> pp.23-41をご参照ください。

ほど、知られざる人物だったようだ。むろん百科辞典類には載っていない。しかしちょっと意外なことに、永井荷風が「ゴンクールの歌麿並北斎伝」に日本美術の大収集家として名前をあげている<sup>9</sup>。「ゴンクール賞」という文学賞があるくらい、ゴンクール兄弟は作家としても日本美術の収集家としても有名である。名門出の当時の「セレブ」と並

べて、荷風が無名無冠の収集家バルブトーに言及したのは、わけがあるかもしれない。荷風のパリ体験はそれほど長くない。1908年3月から5月までの2か月にすぎなかったようだ。その短いパリ滞在の間に、オテル・ドゥルオ(パリ公営競売所)でバルブトー・コレクションのオークションが行われている。荷風がふらっとバルブトー・コレクションの競売に立ち寄った可能性もまったくないとはいえないのだ。

ピエール・バルブトーは1862年にフランス西南部の小さな村で生まれた。出生証書や婚姻証書には、本人や親族のほか、証書に署名する証人の職業も記されている。それらによると、父親は大工、母親はお針子、祖父母は日雇い労働者、証人たちの職業欄には大工、錠前屋、平役人等々。社会階

<sup>8</sup> “Pierre Barboutau”のフランス語発音に忠実なカナ表記は「ピエール・バルブト」であろう。しかし、Pierreという名前は「ピエール」と長音を入れるのが定着していること、そして、他の人名表記との整合性を考慮して「ピエール・バルブト」とした。本人は、著書『日本浮世繪師』の表紙に「びえる ばるぶと」と書かせている。なお、荷風は「バルブトオ」、織田萬は「バルブトー」と表記している。

<sup>9</sup> 「ゴンクールは…遺書を認めて其が所蔵の浮世絵其の他の美術品を尽く競売に附せしめたり。彼は其の生涯の慰安たりし絵画人形絵本其の他の美術が博物館と呼ばれし冷なる墳墓に輸送せられ無頓着なる観覧人の無神経なる閱覧に供せられんよりは寧ろ競売者の打叩く合図の槌の響と共に四散せん事を望みたり。…此の如く骨董鑑賞家が其の秘蔵品を競売に附するの方法是一時巴里好事家の間に流行しチヨオ、バルブトオ等の蒐集品も亦同じく散逸したりき。」「荷風全集」第10巻 岩波書店 1992 <請求記号 KH385-E6> p.206

層間のハードルが高かった19世紀のフランスで、この人は庶民階層出身、エリート層にはほど遠い環境である。しかし彼がまだ幼い頃、一家はパリに居を移している。フランスにおける日本趣味は1867年パリ万博の頃から広がりを見せ、1878年のパリ万博がブームの最盛期。パリの街角には日本趣味の品々が溢れていたという。1862年生まれのバルブトーは、そんな街の空気を吸って育ったにちがいない。ちょうど21世紀の現在も、フランスの子どもたちの記憶に（しばしば、日本発とは意識されることなく）、日本のアニメやマンガやゲームがインプットされつつあるように。ともかく彼は、何かのきっかけで1886（明治19）年の日本にやってきた。そして日本美術、とくに浮世絵に「一目ぼれ」することになる。生涯で4回、計7年間日本に滞在したという。バルブトーについての記録はとても少ないが、京都帝国大学教授、日本人初の国際司法裁判所判事を歴任した織田よろず萬（1868-1945）は、『日本浮世絵師』（本稿5をご参照ください）序文に次のように書いている<sup>10</sup>。

十有七年前余が始めて歐州遊學の途に上れる  
とき同舟の客に一佛人あり<sup>11</sup> 其性洒落にして  
義氣に富み又談を好み 余旅中の好伴侶  
を得たるを喜び日夕相共に語るを以て樂とせ  
り 是れを本書の著者バルブトー氏とす  
而して當時唯其日本を愛する人たることを知  
りたるに止まりしが巴里に到れる後亦親しく  
相往來して始めて氏が日本美術の賞玩者にして  
就中浮世繪を蒐集し其技術の巧拙畫風の由  
來變遷の研究に熱心なることを知れり

織田萬は文部省留学生としてパリ滞在中<sup>12</sup>、「語

学練習」のために、バルブトーを週1回訪ねている。手料理をご馳走になって、バルブトーが企画していた、浮世絵師に関する日本語資料<sup>13</sup>を仏訳する仕事を手伝っていた。画引き辞書から読み方を見つけ、ヘボンの和英辞書で英訳、しかし英語は苦手なので、英仏辞書を引いてやっと判読、というバルブトーの翻訳の悪戦苦闘ぶりを「見ちゃいられない」という心情が織田のエッセイ<sup>14</sup>から読みとれる。当時の日本のエリート中のエリートが、偶然にもバルブトーの翻訳を手伝ったことは幸運だった。翻訳の質を高めることで、広くいえば、日本文化を世界に向けて発信することに、間接的ではあったが貢献したからである。なぜなら、ユリウス・クルトは『日本美術の発見者たち』<sup>15</sup>のひとりだが、著書『写楽』（1910年）<sup>16</sup>に用いた資料のうちの多くを、バルブトー・コレクションの図版と2人の日本語資料フランス語訳に準拠しているからである<sup>17</sup>。そして後に、バルブトーの仕事の集大成となるはずであった『日本浮世絵師』も、このときの日本語資料の翻訳がベースとなっている。

1908年の『フランス書誌総合目録』<sup>18</sup>は、この人物に「オリエンタリスト」（『広辞苑』の定義では「東洋学者、東洋語学者」）の肩書きを与えた。この肩書きは、彼の「日本美術研究家」としての顔。1916年の死亡証書の記載は「古美術商」となっていて、これは彼の「日本美術収集家」としての顔。そして、稀有なハイブリッド挿絵本「プロデューサー」としてのもうひとつの顔も、リストに書き加えておく必要があるだろう<sup>19</sup>。

## 5 <『日本浮世絵師』ぴえる ばるぶと> パリ、1914年<sup>20</sup>

表紙には、欧文タイトルとともに著者名と書名

が日本語で、上記のように「描かれて」いる（写真7）。日本語タイトルそのままに、この本は、日本の浮世絵師に捧げられた、著者の渾身をこめたオマージュである。バルブトーは『日本浮世繪師』刊行の原資を得るために、そのコレクションを数回にわたって、競売に付しているのだ。

フランス国立図書館でこの本を閲覧し、写真版コピーを「ずいぶん高いコピー代……」と思いながら入手してから、何年か経った頃である。325部発行されたというこの本の別の一冊が、京都の古書店の書棚に「帰って」きていた。京都の本は、フランス国立図書館所蔵のものより図版数も多く、「パリの浮世絵師」と呼ばれたアンリ・リヴィエール<sup>21</sup>に著者から謹呈されたものであった。『日本浮世繪師』のテキストはパリ生まれだが、木版の図版が多く添えられていて、バルブトーはその版木を日本の職人に発注するため、1911年にパリから京都まではるばるやってきている。だから本は、図版の故郷、京都に「帰って」いた、というわけである。

この本について説明するのは少々ややこしい。まず、これは未完成の書物である。奥付も目次も欠けている。3分冊で販売、全2巻で完結する予

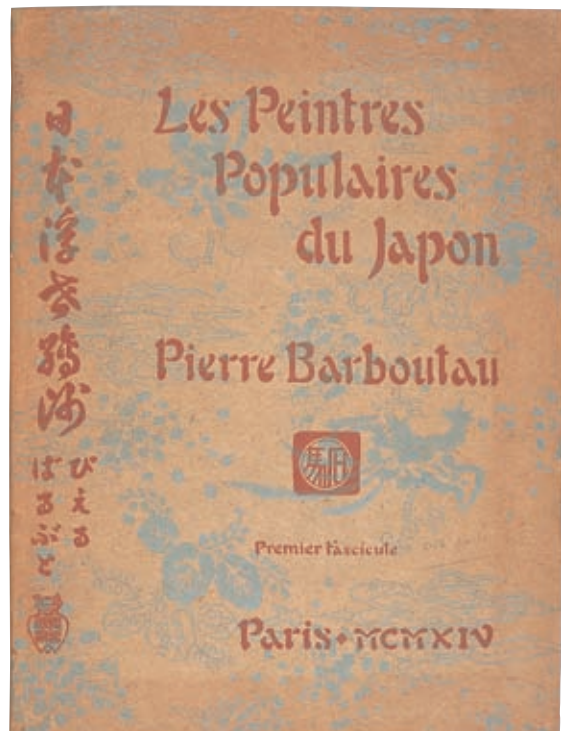


写真7 『日本浮世繪師』第1分冊 表紙

定の、第1分冊なのだ。本文は40ページしかなく、文章の途中でぶつ切り切れている（次頁写真8）。第1分冊が出版された1914年は第一次世界大戦が勃発した年である。第2、第3分冊はそれぞれ1914年秋と翌年に刊行の予定だったが<sup>22</sup>、私はまだそれらを目にしたことがない。「多年苦心の原稿は略ぼ完結」していたはずだが、「…その遺業がどうなつたかは皆目判からなかつた。要するに

10 フランス語序文（pp.VII-VIII）に続くページに、日本語筆書きのままの序文の複写版が綴じ込まれている。

11 1896年5月31日に横浜を出港したフランス汽船、カレドニア号の乗船者名簿に織田萬とバルブトーの名前がある（*The Japan weekly mail*, 1896.6.6 <復刻版請求記号 Z99-1059>）。

12 織田萬は1896年から2年ほどフランスに滞在した。

13 狩野寿信編『本朝画家人名辞書』、樋口文山編『日本美術画家人名詳伝』、本間光則編『増補浮世絵類考』（新版）の、いずれも明治20年代に刊行された版を翻訳に使用した、とバルブトーは記している。*Biographies des artistes japonais dont les oeuvres figurent dans la collection Pierre Barboutau*. Paris, 1904, 2 tomes. <請求記号 YP14-2> tome 1, p.XIII

14 織田萬「ビエール・バルブトー」『民族の辯』（文芸春秋社1940）pp.128-133 <請求記号 049-0179ウ> \*館内でデジタル画像を閲覧可能

15 矢島新、山下裕二、辻惟雄著『日本美術の発見者たち』東京大学出版会 2003 <請求記号 K81-H16> pp.107-108

16 Kurth, Julius. *Sharaku*. München : R. Piper, 1910. <改訂2版（1922年刊）の請求記号 KC172-A127>

17 1904年のバルブトー・コレクション競売時に、コレクション収蔵作品の図版と詳細な絵師の伝記（日本語資料の仏訳）を含む、大部の2巻本カタログ（注13）が刊行された。

18 *Catalogue générale de la Librairie française*, tome 18. Paris: Hachette, 1908, p.94

19 2012年1月10日現在ではWorldCatに、バルブトーが“editor”, “illustrator”として関わった著作が収録されている。

20 Barboutau, Pierre. *Les Peintres populaires du Japon* [1<sup>er</sup> fascicule]. Paris : Chez l'auteur, 1914. <請求記号 YP51-B302>（日本語書名：『日本浮世繪師』）

21 Rivière, Henri (1864-1951) 北斎「富嶽三十六景」を手本にした「エッフェル塔三十六景」を描いている。

22 ディジョン市立図書館（Bibliothèque municipale de Dijon）の書誌データには、注記に「戦争のため本作品の刊行は中断された」とある。





写真8 「日本浮世繪師」第1分冊 最終ページ (p.40)

素志を達し得ずして逝つたのであらうが、<sup>まこと</sup>洵に惜しんでも猶ほ餘りあることである。今は只見本に送つてくれたゞけのものが空しく私の手許に残つてゐる」と、後に大戦中のバルブトの死を知つた織田萬は、そのエッセイを結んでゐる<sup>23</sup>。

拙文にお目を通してくださった方に感謝しつつ、お願いがひとつあります。もしも貴方が世界のどこかで、『日本浮世繪師』の第2、第3分冊の本文と図版<sup>24</sup>を発見されたら、どうかそれを国立国会図書館に入れて、第1分冊と合わせて、日本でこの本を完成させてください。離れ離れになっていたお雛様と一緒にするように、屏風の右隻と

23 織田掲揚(注14) pp.132-133

24 京都の版木で摺られ、100葉準備されたはずの図版も未発見のものが多い。それらの図版には  あるいは  の印章が入っている。「石」は“pierre”(フランス語の普通名詞で「石」の意味)、「馬」はBarboutauの“ba”を表しているようだ。

左隻を揃えるように。日本を愛し、日本文化の発信に微力ながら貢献した、知られざるオリエンタリストのために<sup>25</sup>。

### おわりに

デジタル情報では伝えきれない質感や空気、数値化されにくい何か、をモノとしての本はもっている。そんな気がする。しかし紙資料としての本は、とくにそれが個人蔵の場合、いつ資源ゴミにされても不思議ではない、という危機感を私は感じている。そのようなわけで、たまたま手元に集めた資料をいくつか国立国会図書館に収蔵していただけることになり、多くの読者のアクセスが可能になったことは、とても有難いことだと思っている。最後に誌面をお借りして、お力添えくださった方々に、そして、2011年早春に故人となられた中学時代の友、国立国会図書館 調査及び立法考査局 元専門調査員の佐々木良さんに、心からの謝意を記しておきたい。

(たかやま あき)

### 高山 晶氏 プロフィール

元慶應義塾大学教授。  
おもな著書に、『ピエール・バルブトー 知られざるオリエンタリスト』(注25参照)のほか、『フランス語手紙の12か月』(エマニュエル・ボダン共著 白水社 2005)など。翻訳に、『ほんとうのお父さんがいたのよ(ドルト先生の心理相談 2)』(みすず書房 2002)など。  
ここでご紹介いただいた本は、平成23年6月から8月に高山氏が国立国会図書館にご寄贈くださったものである。

25 詳しくは、『ピエール・バルブトー 知られざるオリエンタリスト』(慶應義塾大学出版会 2008)をご参照ください。<請求記号 GK415-J2>

# 本の森を歩く

国立国会図書館の巨大な書庫の中から、  
毎回一つのテーマにそって蔵書をご紹介します。

## 第8回 3・11から生まれた本

今回は、平成23年3月11日の東日本大震災に関する本の中から、岩手県、宮城県、福島県の方々が制作に関わった本をご紹介します。

### 1 震災を記録する

『その時、閉上は』(1)は、宮城県名取市<sup>ゆりあげ</sup>閉上に住む著者が、3月11日、12日の2日間を手元のカメラで克明に記録したものです。岩手県宮古市の『広報みやこ』No.139(2)は、市内の沿岸部7地区の被害状況を宮古市、宮古漁業協同組合等が撮影した写真が収録されています。いずれも、写真に添えられた説明文が、簡潔ながらたいへんな緊迫感をもって津波の迫る状況を伝えています。

『生きている生きてゆく』(3)は、福島県郡山市のビッグパレットふくしまに避難していた人々の声を収録した、避難者の生活を伝える資料です。野口勝宏氏の写真と和合亮一氏の詩が添えられています。出版の呼びかけ人である天野和彦氏(福島県文化スポーツ局)は巻末のインタビューで、避難所の運営を「おだがいさま」をキーワードとして語っています。

なお、岩手県立図書館、宮城県図書館、福島県立図書館は、震災に関連する資料(一般書・雑誌のほか、行政、ボランティア等の刊行物、チラシなど)を収集しています。岩手県立図書館は、その目録をインターネット上で公開しています([http://www.library.pref.iwate.jp/0311jisin/shinsailib/catalog\\_index.html](http://www.library.pref.iwate.jp/0311jisin/shinsailib/catalog_index.html))。

### 2 震災前の姿を残す

『せんだいノート』(4)は、南三陸町の美しい紙の飾り「きりこ」、氷河期の森を復元した自然公園、県内の書店など、宮城県内の文化とそれを支える人々を、東日本大震災で失われてしまったものも含

1 小齋誠進 著・刊  
『その時、閉上は 平成23年3月11日 東日本大震災 小齋誠進写真集』  
2011.8 81頁 30cm  
<請求記号 EG77-J611>

税込1,500円。入手方法は著者のブログ「イーゴンの徒然」(<http://e5n.mo-blog.jp/>)参照。



2 宮古市編・刊『広報みやこ』(139) 2011.6.1 写真はp.3

宮古市ホームページ (<http://www.city.miyako.iwate.jp/cb/hpc/Article-7038.html>) で閲覧可能。

国立国会図書館は、この抜粋である『津波 宮古市の被災記録と復興への一歩 写真特集 Document 2011.3.11』(宮古市編集・監修 2011.9 宮古商工会議所刊)を所蔵。<請求記号 Y121-J6390>



3 『生きている生きてゆく ビッグパレットふくしま避難所記』  
「ビッグパレットふくしま避難所記」刊行委員会 刊 アム・プロモーション 発売  
2011.9 233頁 22cm  
<請求記号 EG77-J634>

税込1,575円。入手方法は「版元ドットコム」(<http://www.hanmoto.com/>)参照。





4 仙台・宮城ミュージアムアライアンス編 仙台市教育委員会監修 『せんだいノート ミュージアムって何だろう?』 仙台市市民文化事業団 刊 三樹書房 発売  
2011.10 112、32頁 26cm  
<請求記号 UA31-J169>

税込1,470円。入手方法は三樹書房ウェブサイト (<http://www.mikipress.com/>) 参照。



5 『海と風と町と みやぎの思い出写真集 3・11津波で失われた宮城の風景』 みやぎの思い出写真集制作委員会 刊  
2011.10 121頁 20×20cm  
<請求記号 GC22-J36>

税込525円。入手方法はウェブサイト (<http://www.m-omoide.jp/>) 参照。



6 仙台ひと・まち交流財団編・刊 『私はこうして凌いだ 食の知恵袋 3.11 東日本大震災』  
2011.12 44頁 21cm  
<請求記号 Y93-J4591>

税込300円。入手方法は仙台ひと・まち交流財団ウェブサイト (<http://www.stks.city.sendai.jp/hito/WebPages/osirase/sassi.html>) 参照。



7 坂内智之、大塚玲子 文 柚木ミサト 絵 木村真三 監修 『放射線になんか、まけないぞ!』 太郎次郎社エディタス  
2012.1 47頁 23cm  
<請求記号 Y11-N12-J28>

税込1,260円。入手方法は太郎次郎社ウェブサイト (<http://www.tarojiro.co.jp/>) 参照。

めて記録しておこうという試みです。巻末には「東北ミュージアム一覧」として、東北六県の美術館・博物館等の名簿があります。震災後、平成23年7月現在の各施設の開館状況がわかります。

『海と風と町と』(5)は、津波で失われた風景を取り戻そうという意図のもと、公募により集まった写真を収録したものです。震災関連書にはあまり見られない、美しい海の色が印象的です。

### 3 震災後を生きる

『私はこうして凌いだ』(6)は、水・電気・ガスが止まる中、買い置きしてあった食材を利用して作った料理のレシピ集です。宮城県仙台市で集められたレシピに、作った人の横顔とその食にまつわるエピソードが添えられ、沈みがちな被災生活に少しでも食の楽しみを取り入れようという苦心の様子が伝わってきます。合わせて、震災時に必要だったものや役立ったものに関する市民の声を収録しています。

『放射線になんか、まけないぞ!』(7)は、原発事故後、放射性物質とともに生きていくこととなった小学生に向けて、福島県の小学校教諭が書いた本です。放射線の基礎知識が平易な文章とイラストで丁寧に説明されています。一緒に読む大人向けには、より詳細な解説が付いています。外部汚染や内部汚染、除染といった話とともに、得た知識を生かすための具体的な行動の数々が示されています。最後の「どうして、みんなで考えるの?」の項は、いろいろな考えの人たちが話し合うことの重要性を示して「社会ってというのは、そんなふうに、自分たちでつくっ



ていくものなんだ。」と結ばれています。

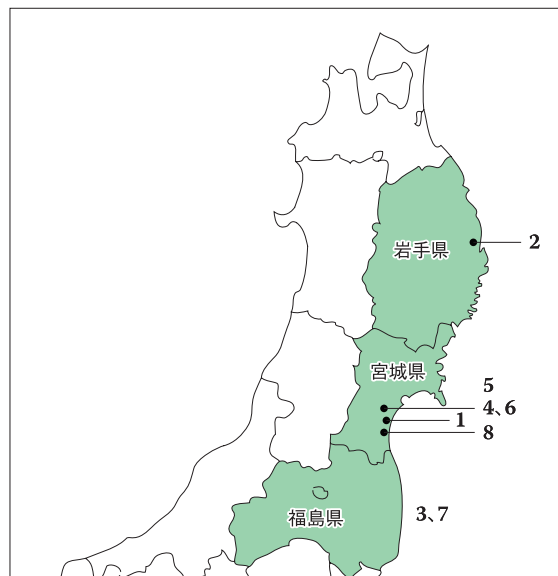
『学校の危機管理』(8)は、宮城県岩沼市の小中学校の危機管理マニュアルです。得られた教訓を次の災害に活かすという強い思いから、震災後4か月という早さで刊行されました。災害対応にあたった現場からのメッセージがそれぞれの対策の前に掲げられ、どのように行動すべきかだけでなく、何に重きを置いて行動すべきかが伝わるものとなっています。学校だけでなく、図書館等の公共施設においても参考になる資料です。

東日本大震災に関する本は数多く出版されており、ここでご紹介したのはそのごく一部です。1冊の本として編集された情報には、インターネットやツイッターなどで流通する情報とはまた違った価値があります。震災を忘れないために、また、次の災害への備えとして、大切に受け継いでいきます。甚大な被害の中で貴重な記録をまとめている方々に敬意を表するとともに、このような出版物が被災した方々の力となるよう心から願っています。

(総務部人事課 村本 聡子、  
総務部総務課 服部 恵久、松井 一子)

8 『学校の危機管理 東日本大震災から学ぶ次への備え』  
岩沼市教育委員会 刊  
[2011] 77頁 30cm  
<請求記号 FC1-J195>

冊子と同じ内容のデータをCD-Rで送付可能。A4判の入る封筒に140円切手を貼り、〒989-2480 岩沼市桜1-6-20 岩沼市教育委員会 学校教育課へ送付する。



ここでご紹介した本の出版地または内容に関連する地域

#### 納本のお願い

国立国会図書館は、法律で定められた納本制度に基づいて日本国内の出版物を集め、未来に伝えるために大切に保存しています。地方公共団体や個人の出版物は、出版の情報を入力しにくく、収集が難しいものです。皆様のご協力をお願いいたします。

納本制度の詳細については、ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/deposit.html>) をご覧ください。

出版物の納入についてのお問い合わせ先  
国立国会図書館 収集書誌部 国内資料課  
●官公庁・地方公共団体の出版物  
03 (3581) 2331 内線 24620  
●民間の出版物  
03 (3581) 2331 内線 24611

# NDL website renewed

## 国立国会図書館のホームページが新しくなりました

The screenshot shows the National Diet Library (NDL) homepage with several key features highlighted by numbered red arrows:

- ①** Points to the search bar in the left sidebar, labeled "国立国会図書館サーチ".
- ②** Points to the "Google カスタム検索" search bar at the top right.
- ③** Points to the "東日本大震災復興支援" (Great East Japan Earthquake Recovery Support) banner.
- ④** Points to the "新着情報" (New Arrivals) section, specifically to the "ニュース" (News) tab.

The homepage layout includes a top navigation bar with links like "検索向け未登録案内", "よくあるご質問", "サイトマップ", and "日本語(Japanese)". Below this is a main menu with categories such as "利用案内", "サービス概要", "東京本館", "関西館", "国際子ども図書館", "アクセス", "複写サービス", and "登録利用者制度".

The main content area is divided into several sections:
 

- 国立国会図書館サーチ**: Search interface with a keyword input field and "館内外の各種データベースを検索" (Search various databases on and off-site).
- 新着情報**: News section with tabs for "プレスリリース", "ニュース", "イベント・展示会", "刊行物", and "採用情報". It lists recent news items with dates and titles.
- 閉館カレンダー**: A calendar for February 2012, showing dates and days of the week.
- これからのイベント・展示会**: Upcoming events and exhibitions, including "第3回 公共図書館におけるデジタルアーカイブ推進会議(関西館)" and "第8回 JFLS 協同データベース事業フォーラム(関西館)".
- スポットライト**: A featured section with a "利用者登録をお勧めします" (We recommend user registration) notice and a "ビジュアル雑誌の明治・大正・昭和" (Visual magazines from Meiji, Taisho, and Showa) article.

At the bottom, there is a footer with "国立国会図書館ホーム" and "Copyright © 2012 - National Diet Library. All Rights Reserved."

平成24年2月23日に国立国会図書館のホームページが新しくなりました。平成19年4月に行った前回のリニューアルから5年近くが経過し、国立国会図書館の提供するサービスは大きく変わりました。大量のデジタルコンテンツ、蔵書目録・索引データベース、国会関連情報、利用案内など、さまざまな情報がより利用しやすくなるように、デザインを一新し、主に次の点を改善しました。

## 各種サービスへのアクセスの改善

蔵書やデジタルコンテンツを簡便に探せるよう「国立国会図書館サーチ」（詳細は次の記事「さがすヒント」参照）の検索窓をトップページに配置しました（①）。また、サイト内検索と「国立国会図書館サーチ」の検索を切り替えることができる検索窓（②）をほとんどのページに配置し、ホームページのどこからでも「国立国会図書館サーチ」の検索ができるようになりました。

また、おもなサービスのバナーをトップページに配置し（③）、アクセスしやすくしました。

## 開館日カレンダーの設置

ご要望の多かった開館日カレンダーをトップページに配置しました（④）。東京本館、関西館、国際子ども図書館のカレンダーをタブで切り替えるようになっています。

## ウェブアクセシビリティの改善

JISX8341-3：2010やWCAG2.0の規格に基づき、ウェブアクセシビリティの改善を図りました。これまでのように配色や音声ブラウザでの読み上げなどに配慮するほか、従来のホームページにあったプルダウンメニューを廃止し、キーボードのみで操作できるようにしました。

## サイト内検索の改善

必要な情報を簡単に見つけられるよう、サイト内検索（②）にGoogle社のカスタム検索を採用しました。

今後とも国立国会図書館ホームページをご活用いただければ幸いです。

（電子情報部電子情報流通課）



この1月、国立国会図書館と外部機関の蔵書・デジタルデータを一度に検索できる「国立国会図書館サーチ」が本格サービスを開始しました。また、国立国会図書館蔵書検索・申込システム「NDL-OPAC」が新しくなり、アジア言語資料もあわせて検索できるようになりました。

この連載では、「国立国会図書館サーチ（以下、サーチ）」とNDL-OPACの使い方をご案内します。

**Q** サーチ、NDL-OPACとも、検索結果が多すぎて迷ってしまいます。

**A** サーチでは、「検索結果一覧」画面左側の「検索結果の絞り込み」①で、資料種別、データベース、所蔵館、出版年、分類などから絞り込むことができます。資料種別では、雑誌は「本」に含まれていることにご注意ください。そのほか、「詳細検索」画面②で、タイトル、著者名、件名などの項目別に検索したり、資料種別やデータベースを限定して検索する方法があります。例えば「件名」を使うと、そのテーマを扱っている資料を探すことができます。「簡易検索」で「エネルギー政策」を検索すると3,599件ですが、「詳細検索」で「件名」に同じキーワードを入力して検索すると1,423件となります。また、「件名」で検索することで、タイトルなどに「エネルギー政策」が含まれないものもヒットします。

NDL-OPACでは、「検索結果一覧」画面で「検索結果の絞り込み」③をクリックすると、資料種別、出版年、所蔵場所と、タイトル、著者名、件名等の書誌事項、各種コードで絞り込むことができます④。各種コードとは、書誌データに付与されている、その資料の性



①



②

## ? 件名がわからないときは

「サーチ」下部のリンクから「Web NDL Authorities (国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス)」をご覧ください。例えば「映画 歴史」とキーワードを入れると、関連する件名として「映画--アメリカ合衆国--歴史」「映画--日本--歴史--昭和前期」などが出てきます。探しているテーマに近いものをクリックすると、「国立

国会図書館サーチ」をその件名で検索できるボタンが表示されます。

このほか、よさそうな資料が1点見つければ、その資料についている件名で検索する方法もあります。NDL-OPACでは、検索結果の件名をクリックすると「リンク検索」として、その件名をもつ資料を検索できます。

質を表すコードです\*。例えば、日本語の資料に絞りたい場合は「本文の言語コード」を「jpn」と指定します。

\*コード表は「詳細検索」画面下部のリンクまたは「ヘルプ>6 検索のヒント>2 コード表など」からご覧になれます。

サーチ、NDL-OPACとも、「タイトル」と「件名」、「著者」と「出版年」など、複数の項目を使って検索すると、ノイズ（不要な情報）を減らすことができます。ただし、NDL-OPACは、「検索結果の絞り込み」画面では、複数の条件を使うことができません。「詳細検索」画面では複数の条件が使えますので、検索結果が多すぎる時は、「詳細検索」画面で最初から条件を設定して検索するほうがよいでしょう。

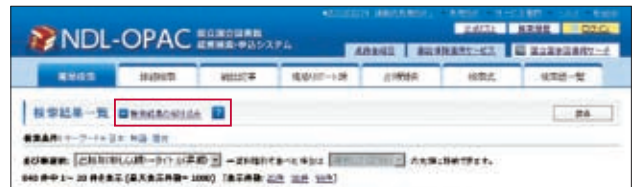
**Q** NDL-OPACで、入力した文字列とまったく異なる検索結果が出てきます。

**A** 新しいNDL-OPACは、検索システムの仕様上、文字列を2文字ごとに切り出して検索し、すべてが一致したデータを表示します。例えば「マンガ」で検索すると、よみに「マン」「ンガ」が含まれる「辛亥革命と日本の満蒙政策」などもヒットしてしまいます。これを防ぐには、複数のキーワードか、文字数の多いキーワードで検索してください。また、「詳細検索」画面⑤で「広範囲に検索」のチェック★を外すと、入力した文字列で検索します（文字の切り出しを行いません）\*\*。

\*\*ただし、「内容細目」（論文集などの個別のタイトル）など、検索できない項目があります。また、入力した文字列が書誌データのよみの区切りと一致しなければヒットしません（『ドイツ』で検索すると、『ドイツの歴史（ドイツ ノ レキシ）』はヒットしますが、『ドイツ語会話（ドイツゴ カイワ）』はヒットしません）。

**Q** NDL-OPACをブックマークすると、英語版の画面になってしまいます。

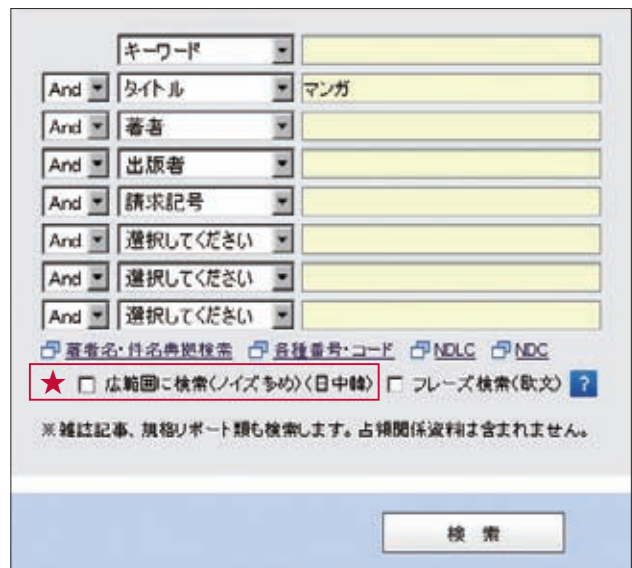
**A** ブックマークには「https://ndlopac.ndl.go.jp/」のURLを指定してください。



③



④



⑤

- この記事は平成24年2月末時点のデータをもとにしています。
- 次回は、NDL-OPACの「検索式」「検索語一覧」を使った検索方法をご案内します。
- 蔵書の検索方法について、ご意見、ご質問をお寄せください。電子メール [geppo@ndl.go.jp](mailto:geppo@ndl.go.jp)

(利用者サービス部サービス企画課、  
電子情報部電子情報サービス課)



明治から昭和前期にかけての図書（この多くはデジタル化の後、関西館に移送されている）

# 国立国会図書館にない本

## 戦前から占領期の出版物

小林 昌樹、鈴木 宏宗、山田 敏之

国立国会図書館は「どんな本でもある」と評されることがあります。しかし残念ながら、「どんな本でも」所蔵しているわけではありません。「探している本が国会図書館にない、どうしよう」という声もよく聞かれます。特に戦前から占領期の出版物は、所蔵が少ないものの一つです。なぜ所蔵が少ないのか、また、国立国会図書館で見つからないときの探し方をご案内します。

## 1 戦前期の出版物

### (1) 日本国内で刊行された図書

国立国会図書館が所蔵する戦前期の国内の図書は、帝国図書館から引き継がれたものが大部分を占めています<sup>1</sup>。これらのほとんどは、出版法により検閲のために内務省に納入された2部の出版物のうち、実際に検閲のための書き込みなどがなされない1部が内務省から交付（移管）されたものです。このため、私家版など市場に出回らなかったものは、あまり所蔵していません。私家版も納入の義務はありましたが、厳密には履行されていなかったからです。商業出版物でも内務省に納入されなかったものや帝国図書館に交付されなかったものがあります。さらに、帝国図書館は蔵書の一部を長期保存せず廃棄していました。図書は、次のように大きく甲、乙、丙の3部に分けて管理されていたのです<sup>2</sup>。

甲部：利用・保存の価値ありとするもの。図書の大部分は甲部に分類され、利用者の閲覧に提供された。

乙部：目下の利用価値には乏しいが一応保存し、後日の判断に待つとするもの。当時は閲覧に提供されていなかった。通俗書のほか、教科書、パンフレット類が含まれるが、時期によって傾向に多少の違いがある。

丙部：利用・保存の価値なしとするもの。主に広告、引札、パンフレット類、帳簿

類とみられる。統計上は現れない。

これらのうち、丙部は1年間保存された後に廃棄され、現在は残っていません。また、乙部は、隣の東京美術学校の書庫に預けていたところ、明治44（1911）年に同校が火災に見舞われ、多くのものが半焼または消火のため水をかぶって使用不能となり、翌明治45年に約3万冊が廃棄されたという記録があります<sup>3</sup>。

昭和36（1961）年、帝国図書館の建物を引き継いだ支部上野図書館で、関東大震災の後3か月間に発行されたパンフレット類78点が見つかりました。丙部に区分されながらも廃棄されず残っていたまれな例です<sup>4</sup>。

### (2) 雑誌・新聞

戦前期の雑誌も帝国図書館から引き継がれたものがほとんどですが、図書と異なるのは、内務省からの交付が明治30（1897）年に打ち切られてしまっていることです。交付の打ち切り後は、ほとんどが寄贈で集められたので（一部購入）、昭和14（1939）年頃には、当時出ている全雑誌に対する収集率は約3割（流通雑誌を中心に考えた場合）、非売品などを含めて考えると約6%程度になっていました<sup>5</sup>。交付打ち切りも低収集率も、書庫が満杯だったことが原因ですが、多くの戦前期の雑誌が当館に引き継がれない結果となりました。

新聞も同様で、帝国図書館は大正4年以降、40

1 詳しくは、鈴木宏宗「国立国会図書館の和図書」『国立国会図書館月報』(600) 2011.3 pp.20-29参照。(http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\_3050791\_po\_geppo1103.pdf?contentNo=1)

2 岡田温「旧上野図書館の収書方針とその蔵書」『図書館研究シリーズ』(5) 1961.12 <請求記号 Z21-127> pp.202-203

3 『上野図書館八十年略史』国立国会図書館支部上野図書館

1953 <請求記号 016.11-Ko5488u> p.151

4 「関東大震災当時のパンフレット発見の経緯について」『国立国会図書館月報』(187) 1976.10 <請求記号 Z21-146> p.13

5 田中久徳「旧帝国図書館の和雑誌収集をめぐる」『参考書誌研究』(36) 1989.8 pp.1-21 (http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\_3051285\_po\_36-03.pdf?contentNo=1)



台湾総督府図書館からの領収証（大正5年8月7日）

紙以上の保存をとりやめました<sup>6</sup>。大正5年には、台湾総督府図書館に『台湾日日新報』第1号から第5630号、『台湾新報』第1号から第489号、『漢文台湾日日新報』第2156号から第4077号を寄贈しています。帝国図書館に勤務した後、台湾総督府図書館に勤務し、新聞の移管に尽力した小長谷恵吉はこの件について「…帝国図書館に交渉して其保存に係る臺灣日々新報（初號より欠號なく完全に揃

6 西村正守「文書に見る帝国図書館の新聞収集 明治・大正期の歩み」『参考書誌研究』(6) 1972.10 pp.23-36 ([http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_3050909\\_po\\_06-14.pdf?contentNo=1](http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_3050909_po_06-14.pdf?contentNo=1))

7 小長谷恵吉「臺灣総督府在勤時代の思出」『資料公報』4 (10) 1943.10 満州帝国国立中央図書館 <請求記号 雑14-81> pp.13-18 \*館内でデジタル画像を閲覧可能。

## 国立国会図書館にないとき その1 本当に「ない」か

書誌事項（タイトル、著者名、出版者、発行年など）に間違いはないだろうか。確認した上で、NDL-OPACで見つからなくても、国立国会図書館で所蔵していることがある。

### (1) マイクロフィルム

コレクション単位でマイクロフィルムにまとめられたものは、全体のタイトルは検索できるが、収録されている刊行物は、そのマイクロフィルムの目録（付属の冊子等）を調べなければわからない。例えば、NDL-OPACで見つからない社史が、『マイクロ版「日本の会社史」』全440巻（丸善 1994-1996）で見つかることがある。

### (2) 憲政資料室（東京本館）の所蔵資料

憲政資料室が所蔵する、政治家や官僚の文書である憲政資料、日本占領関係資料、日系移民関係資料の中に図書、雑誌等が含まれている。

憲政資料はNDL-OPACでは検索できない。旧蔵者ごとに目録が作成され、旧蔵者名の一覧と目録の一部（PDFファイル）、リスト「憲政資料 資料群中の図書・パンフレット一覧」が「リサーチ・ナビ」にある。旧蔵者名などから目星をつけて探す。例えば、野村吉三郎著『日本海軍再建裏話』は、NDL-OPACでは見つからないが、憲政資料室備付の「野村吉三郎文書」（平成

20年公開）の目録をめくってみると、書類の部の「再軍備関係」のところに「野村吉三郎著『日本海軍再建裏話』（1960年3月22日座談会記録）」と載っている（野村吉三郎関係文書818）。

戦後、占領軍によって公文書等と一緒に接收された戦前の出版物は、現在は米国議会図書館に残されている。そのマイクロフィルムが憲政資料室で閲覧できる。目録とその調べ方は、「リサーチ・ナビ」の「日本占領関係資料 所蔵機関別索引」>米国議会図書館>WDC 接收資料」を参照。

日系移民関係資料に含まれる和図書は、NDL-OPACで検索できる。雑誌やパンフレットは、「リサーチ・ナビ」にリストがある。

\*リサーチ・ナビ>憲政資料室の所蔵資料

<http://rnavi.ndl.go.jp/kensei/>

### (3) 特殊コレクション

『寿岳文章書物論集成』（沖積舎 1989）は、NDL-OPACでは見つからないが、出版界で活躍した布川角左衛門（1901-1996）の旧蔵書のコレクション、布川文庫の中にある。布川文庫には書物、出版関係の図書・雑誌類が多く含まれ、図書は人文総合情報室（東京本館）備付の「布川文庫閲覧用リスト」で、雑誌・新聞は「リサーチ・ナビ」の「布川文庫」のページで検索できる。



へるもの)を…臺灣總督府圖書館の書架に列するの幸運を贏ち得た。これは當の臺灣日々新聞社でさへ保有してゐなかつた。まして島内の官衙學校杯に現存すべくもなかつた。これまさに本島の國寶的根本史料と云ふべきだ。」と書いています<sup>7</sup>。

### (3) 官庁出版物

機密以外の官庁出版物の目録として、内閣印刷局から『官庁刊行図書目録』<sup>8</sup>が刊行されていました。この目録に収録されている出版物には、国立国会図書館が所蔵していないものがあります。例えば、海軍の辞令、例規等を掲載する、海軍省大臣官房発行の『海軍公報』ですら所蔵がありません。官庁出版物も内務省への納入対象でしたが、帝国図書館には交付されなかったらしく、各官庁などの自発的な寄贈によって集まったようです<sup>9</sup>。

8 昭和2(1927)年～昭和18(1943)年7月(昭和13年からは「官庁刊行図書月報」) <複製版請求記号 Z21-1314>

9 岡田 前掲(注2) p.204 岡田は「旧出版法による納本規定は官庁出版物には及んでいなかった」としているが、法律上は規定されていた。しかし、何を納本すべきかの解釈はあいまいだったようであり、おそらく、内務省にもあまり集まっていなかったのではないかと。また、官庁出版物は定期的に刊行されるものが多いので、雑誌と同様に帝国図書館への交付もなされなかったのではないと思われるが、実態は不明である。なお、当時の出版法では、地方自治体の出版物は民間のものと同じ扱いであった。

10 現・国立教育政策研究所教育研究情報センター教育図書館

### (4) 教科書

明治以来終戦時までの教科書は、昭和25(1950)年3月に、5万2千冊余を文部省所管の国立教育研究所に移管しており、現在は所蔵していません<sup>10</sup>。教科書は増加率が高いため、収蔵スペースを確保できなかったことが理由とされています<sup>11</sup>。その後、国立国会図書館は、平成14年度に再び教科書の収集を開始しました。

### (5) 旧外地の出版物

朝鮮、台湾など旧外地の出版物は、それぞれの植民地庁で検閲が行われ、内務省には納入されていませんでした。また旧満洲国は外邦(外国)とされていました。このため、旧外地(外邦含む)で刊行された日本語の出版物は、所蔵していないものが多いのです。

(<http://www.nier.go.jp/library/>)で利用可能。正式に移管されたのは昭和28(1953)年12月。

11 加藤宗厚『最後の国立図書館長 ある図書館守の一生』公論社 1976 <請求記号 GK72-49> p.159「(支部上野図書館の)書庫はいよいよ狭隘の度を加え、増築は中々認められないし木造書庫の火災の危険はひしひしと感ぜられる。そこで…スペースを作るために考えたのが図書の移管である。」鳥居美和子著『明治以降教科書総合目録 中等学校篇』小宮山書店 1985(教育文献総合目録 第3集) <請求記号 370.31-Ko548k-k> の編者鳥居の自序にも「教科書類は極めて増加率が高く、帝国図書館は収蔵しきれず、文部省も苦慮して諸所に保管を依頼したようである。」とある。

## 国立国会図書館にないとき その2 検索サイトで探す

タイトルや著者名がわかっている場合、まず、Google等の検索サイトで検索してみる。Googleでは、主に次のようなデータがヒットする。

- ①国立国会図書館サーチ NDL-OPACに加え、全国の公共図書館の蔵書(旧「ゆにかねっと」)、約1,300機関の新聞、主要7機関の児童書、国内のデジタルコンテンツ等。
- ②Cinii books 全国の大学図書館約1,200館、一部の公共図書館、外国の研究機関等の蔵書。
- ③World Cat 世界各国の主要な図書館の蔵書。

米国のOCLCが管理しており、画面は英語のみ。検索は漢字かなでも可。

\*目録にデータがあってもGoogleでヒットしないこともあるので、見つからないときは念のため①～③を個別に検索する必要がある。

古書市場に出回っている場合、「日本の古本屋」「スーパー源氏」等の古書販売目録、オークションサイト等もヒットする。ただし、売約済あるいは品切れなど、必ず入手できるわけではない。

### (1) 特殊コレクション・専門図書館

戦前でも図書（単行本）に限っていえば、国立国会図書館はすべてでないとはいえ、かなりの割合で所蔵している。国立国会図書館で見つからなかったものは、比較的特殊な本ということになる。

まず、探している本の主題（テーマ）を分析して、その主題を多く含む特殊コレクション（個人の旧蔵書などをまとめて保存しているもの）や専門図書館（特定分野に重点を置いた図書館）の目録を調べる。これらの目録はGoogleがデータを拾えない構造になっていることが多い。また、データベース化されていない冊子等の目録も重要な検索手段である。

特殊コレクションの多くは人名を冠したものであるため、主題からコレクションを見つけるには、

①『全国特殊コレクション要覧 改訂版』（国立国会図書館参考書誌部編 国立国会図書館刊 1977）、『情報収集・問題解決のための図書館ナレッジガイドブック』（2005年版 東京都立中央図書館編 ひつじ書房 2005）などのレファレンス・ブック（参考図書）を参照する。

②図書館の目録を件名、分類などを用いて主題で検索し、その本が含まれるコレクションを見つける。

作業が必要となる。これらの手法は、タイトルや著者名ではなく、特定の主題から文献を探すときにも有効である。

専門図書館については『専門情報機関総覧』（専門図書館協議会刊 紀伊国屋書店発売）などの名簿がある。これらのレファレンス・ブック、名簿類は、図書館の参考図書のコーナーに置いてある。国立国会図書館の専門室・閲覧室でも利用できる。

### (2) 雑誌

○雑誌を探す前に……

次の点に注意しないと、現物はあるのに見つからないということがある。

①タイトルの変遷

輸送上の特別扱い（郵便の「第三種」、鉄道の「特運」）を受け続けるためか、雑誌は巻号を

継承しつつ改題されて続くことがあり、タイトル情報が求める巻号のものとは一致しない場合がある。まず、タイトルの変遷を『雑誌年鑑』（昭和14年～昭和16年分）、『出版年鑑』（昭和5年～昭和18年分）、『広告年鑑』（大正14年～昭和16年分）などで確認する。

②所蔵先の事情

図書館は図書を中心に蔵書を管理してきたため、雑誌の目録は作られないか、図書とは別に作られることが多い。逆に、合冊製本された雑誌は図書として扱われる慣例もあった。なお、雑誌を大きく一般誌（magazine）と学術誌（journal）に二分すると、一般誌は公共図書館に、学術誌は大学図書館に保存される傾向にある。公共図書館は戦後、保存より提供を優先するようになったため、古い学術誌より古い一般誌を見つけるほうが難しい。また、タイトル単位では所蔵していても、欠号も生じる。発行と同時期に集めたものでない場合、端本（一部の巻号だけ）となっていることもある。

○出版された地域の公共図書館

最近では、都道府県単位で、公共図書館の新聞・雑誌の総合目録データベースがインターネット上に作られることが多い。出版地から推測して所蔵のありそうな地方のものを調べる（東京の場合は「区市町村立図書館新聞雑誌総合目録」）。冊子目録では、かなり古いが、『全国公共図書館逐次刊行物総合目録』（国立国会図書館編・刊 1963-1968）が、保存されることの多い郷土雑誌などの探求に役立つ。「国立国会図書館サーチ」でも、県立図書館等の図書扱いの雑誌を検索できる。

○雑誌の収集・保存に特色がある機関

雑誌、特に一般誌を保存提供する機関としては大宅壮一文庫が有名。所蔵する雑誌1万タイトルには戦前雑誌も含まれる。すべてではないが、『大宅壮一文庫索引目録 新訂第2集』（大宅壮一文庫編・刊 1983）の巻末リストなどで所蔵を確認できる。東京大学の明治新聞雑誌文庫（近代日本法政史料センター）には、目録のほか、目次集『東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫所蔵雑誌目次総覧』（全150巻 大空社 1993-1998）がある。なお、同文庫ウェブサイ

トに、同文庫で所蔵していない雑誌・新聞の探し方が掲載されている。

古い私立公共図書館の蔵書を継承する機関には一般誌が残っていることが多い。成田山仏教図書館、三康図書館などの蔵書目録は、インターネットを通じて検索できる。官庁出版物であれば、国立公文書館のデジタルアーカイブもチェックするとよい。

#### ○創刊号コレクション

図書館などの機関が雑誌を購入する場合、初号（創刊号）はどうしても欠けがちだが、それを補完する機能を果たするのが創刊号コレクションである。多くの場合個人により集められ、ジャンルがあまり限定されないのが雑誌の探索に好都合。初号に限らず、初期の号が含まれることも多い。公的な機関に収蔵され目録が作られたコレクションは雑誌の探索に役立つ。宇都宮市立図書館、うらわ美術館、印刷博物館などの目録がある\*。創刊号コレクションで最大級の「大塚文庫」は散逸してしまったが、残された目録が書誌調査に使える\*\*。なお、国立国会図書館の布川文庫（22ページ参照）にも創刊号コレクションが含まれる。

\*『宇都宮市立図書館所蔵雑誌創刊号解題』

（宇都宮市立図書館編・刊 1988）

うらわ美術館、岩波書店編集部編『創刊号のパノラマ 近代日本の雑誌・岩波書店コレクションより』（岩波書店 2004）

印刷博物館編著『ミリオンセラー誕生へ！ 明治・大正の雑誌メディア』（東京書籍 2008）

\*\*『雑誌・創刊号蔵書目録 慶応-昭和』

（大塚文庫 1986）

#### ○発禁号

戦前・戦中に内務省の検閲で発禁（部分削除処分を含む）になった号は、終戦後、連合国に接收され、米国議会図書館に残されている。その多くはマイクロフィルムに撮られ、日本で閲覧できるようになった。発禁は多くの雑誌で発生したため、この発禁号コレクションには、ほかでは残っていない雑誌も含まれる。検索手段として、『日本の公文書及び検閲資料（1954年以前）』（Library of Congress 1992）をはじめとするYoshiko Yoshimura氏編纂の目録がある。

#### ○主題から探す

以上のような一般的な手法で見つからない場合は、前述のようにその雑誌のジャンルに合う特別コレクションや専門機関を探し、その所蔵情報を確認する。例えば、婦人誌はお茶の水図書館、文学誌は神奈川県立文学館で所蔵する可能性が高い。少年誌なら漫画系の図書館にあるかもしれない。

#### ○人物から探す

雑誌の端本が関係者の個人文書にまぎれて収蔵されていることがある。『近現代日本人物史料情報辞典』（伊藤隆、季武嘉也編 全4巻 吉川弘文館 2004-2011）などで調べる。

以上で紹介した目録類のうち、インターネット上で利用できるものは、「リサーチ・ナビ」にリンク集がある（リサーチ・ナビ＞人文科学＞人文リンク集 <http://rnavi.ndl.go.jp/humanities/jinbunlinks.php>）。

#### (3) 旧外地の出版物

朝鮮の出版物は、朝鮮総督府図書館の蔵書を引き継いだ韓国中央図書館に所蔵されている場合がある。同館はデジタル化を積極的に進めており、著作権保護期間が終了したものの一部がインターネットを通じて閲覧できる。例えば、京城にあった大陸研究社の刊行した図書は、平成24年2月現在、NDL-OPACでは柄沢四郎著『朝鮮人間記』と坂本天海著『三十年後の朝鮮』の2点だが、韓国国立中央図書館の「dibrary」（ウェブサイトのトップページに検索窓がある）で検索すると、柄沢の前掲書のほか、坂本天海著『朝鮮の現実より将来へ』など6点が見つかり、このうち4点は本文のデジタル画像が見られる\*。

\*平成24年2月現在、旧字体を入力しなければ検索できない（例：大陸研究社→大陸研究社）。



<http://rnavi.ndl.go.jp/>

インターネット上で  
調べものに  
役立つ情報を  
提供しています

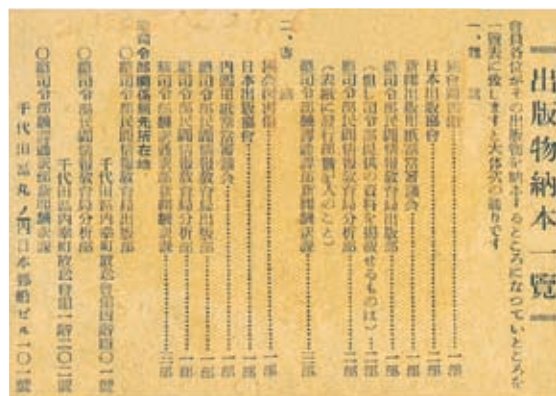
## 2 終戦直後の出版物

### (1) 初期の納本制度が抱えた課題

昭和23(1948)年に国立国会図書館が設立され、その年の5月から、国内の出版物を国立国会図書館に納入することを出版者に義務づける納本制度がスタートしました。しかし、当初の納入状況は芳しくありませんでした。当時の状況を表す資料として、昭和23年度の出版物の用紙割当に関する統計と国立国会図書館への納入数の比較があります(下表)<sup>12</sup>。このほかに、用紙割当を受けないいわゆる「闇出版物」があり、当時の納本制度による納入の実績は「全出版量の半分にも満たなかった」と推定されています<sup>13</sup>。

|    | 用紙割当数               | 実出版数    | 納入数    |
|----|---------------------|---------|--------|
| 図書 | 12,000種<br>(小冊子を含む) | 19,406種 | 5,213冊 |
| 雑誌 | 1,500種              | 2,550種  | 1,118種 |
| 新聞 | 300種                | 1,000種  | 263種   |

当時は、占領軍の総司令部、出版用紙割当事務局(事務局)、出版協会などにも出版物の納入が義務づけられ、一時は図書で8部、雑誌で12部も部数を納入しなければなりません。また、戦前の内務省による検閲の記憶が生々しかった時代であり、国への納本は敬遠したいと考える出版社も多かったようです。当時、国立国会図書館の担当者として出版界、新聞界等の関係者との交渉



『出版文化』(236) 日本出版協会 1949.6.11 p.4

### どこにもない本？

#### ① 残っていない雑誌

大正末から昭和期にかけては多くの雑誌が発行されました。当時の検閲統計では、同窓会誌なども含めて1か月に百誌以上が創刊され、また同様の数が廃刊するといった状況です。流通した雑誌以外にも、機関誌、社内報、会報、商報、通信(業界誌)、内報(業界誌)があり、それらは検閲のために内務省に納本されてはいましたが、帝国図書館には交付されませんでした。

発禁号などを除き、散逸してしまったと思われます。コレクターなどが発行した趣味誌に至っては、『日本郵趣文献目録』(吉田景保編著 双龍社 1979)でかろうじて書誌事項を確認できる程度です。まれに、出版者が現在でも活動しているような場合にそこに残されていることがあります。閲覧は容易ではありません。

12 青木実「一般納本の諸問題」『図書館研究シリーズ』(5) 1961.12 <請求記号 Z21-127> p.25 表は本文をもとに筆者が作成した。

13 青木 前掲(注12) なお、当時の金森徳次郎国立国会図書館長は、昭和24(1949)年4月19日の衆議院図書館運営委員会で「実際出版されておりますものの中で、書物等については四〇%ぐらい入つておるのではないかと考えます。雑誌では六一%ぐらいではなかろうか、新聞では、これは九四%ぐらいではなかろうか。四〇%、六一%、九四%、こういうような数字も出て参ります。しかしながらまたこの出版物等の数を別の方法で推測いたしました、たとえばすでに世間の文書で、新聞とか、出版年鑑、用紙割

当の方の計算とかいうようなものから、一應仮設的に実際上どのくらい出ているかという数字をこしらえて当てはめてみますと、図書及び出版雑誌についてはおよそ四分の一しか納入されておりません。雑誌の面では三五%しか納入されておりません。新聞の面では多分三%くらいになります。たいへん割合が違つておりまして、何がほんとうであるか言いかねますけれども、両方の計算をとりますれば、その中間ぐらいのところには真実があるかもしれないと思います。」と答弁している。

14 山下信庸著『わが国の出版物の納本制度について 民間出版物の部』[国立国会図書館] 1968 <請求記号 AZ-612-3> pp.9-10

にあたった山下信庸は、「率直に言って出版社の中には新制度に好意を寄せるものところを無視するものとの二つがあった。新制度に好意的でない理由の主なもの、何と言っても昔日の検閲制度に対する強い反感と畏怖及び当時の出版事業の経済力の弱さであった。」と書いています<sup>14</sup>。

山下らは関係者に対し、「国立国会図書館への納本は、国際環境の下で、我々日本人が、文化的な日本国家を建設して行く一つの着実な方法」<sup>15</sup>と訴え、新しい納本制度の意図が検閲ではないことを説明し続けました。1年後には、それまで無償であった納本に対して代償金を支払うことになりましたが、状況は改善されませんでした。

ようやく納本制度が軌道に乗り出したのは、取次会社による一括代行納入が始まった昭和26(1951)年からです<sup>16</sup>。その結果、昭和20(1945)

年から26年については、一般に流通していた出版物でも所蔵していないものが散見されます。また、戦後初期の官庁出版物が収録された『官庁刊行物総合目録』<sup>17</sup>と国立国会図書館の蔵書を比較すると、当時は官庁出版物の納入も一部にとどまっていたことがわかります。

#### (4) 占領軍による検閲とプランゲ文庫

占領軍による検閲が行われた昭和20年から24年までの出版物のコレクションとして「プランゲ文庫」があります。占領軍の修史官であった歴史学者のプランゲ<sup>18</sup>が検閲のため集められた出版物の価値に着目し、検閲制度の廃止後に母校である米国メリーランド大学に移管させたものです。

占領軍検閲の対象が学級新聞のようなミニコミ紙にまで及んでいたため、現在、国立国会図書館

## ② 幻の本

漫画本・漫画雑誌も占領軍の検閲対象であり、プランゲ文庫に残されています。漫画家・手塚治虫の初期の作品の多くも含まれ、それまで存在が知られていなかった作品が見つかったこともありました\*。

手塚自身による年譜には記載されているけれども実物が確認されず、「幻の本」といわれる『モモン山の嵐』(有文堂 1947)は、プランゲ

文庫にも収録されていません。なお、手塚が残した『モモン山の嵐』原画の複製が『手塚治虫・創作ノートと初期作品集』(全10冊 小学館 2010)に収録されています。

\* 谷川健司「手塚漫画とプランゲ文庫」『ふみくら』(74) 早稲田大学図書館 2006.7 pp.10-11 (<http://www.wul.waseda.ac.jp/Libraries/fumi/74/74-10-11.pdf>)

15 青木 前掲(注12) p.27

16 昭和26年9月25日の衆議院図書館運営小委員会における金森館長の答弁では、「大体日本を出ております書物の数は正確にはわかりません。けれども私の方ではいろいろ裏表から調査をしております——裏表と申しますのは、正式に出版社からの報告を得て、あるいは出版社を通らないものについては広告その他で調査しております、ときに変化はあるようでございますが、今書物の形をとつております新しい発行物は一年に一万二千、つまり月に千冊くらいと思っております。雑誌の形をとつておりますものは五千種くらいあると思っております。私の方では納本制度になつておりますために、新しく出版したものは必ず一部図書

館に寄託せられるという法律上の筋になつておりまして例外がないとは思いませんけれども、まず九割五分くらいは入つておるものと思っております。」とされている。

17 国立国会図書館支部図書館部編。大空社から1992年に複製版が出ている。〈請求記号 UP11-E4〉戦後初期(昭和20年~33年)の官庁出版物の目録で、各府省庁に置かれた国立国会図書館支部図書館職員の協力を得て編纂された。支部図書館の蔵書など所在が確認できるもののほか、文献調査によって得られた情報も収録する。

18 Prange, Gordon W. (1910-1980)

が収集の対象としているものよりも広い範囲の刊行物が残されていることが、プランゲ文庫の特長です。ジャーナリストの本田靖春は、東京都立高校時代に学級新聞の編集長を務めたときのことを「…担任の教師は教室にやって来て、ときに仕上がりを急かした。刷り上がった新聞をGHQのしかるべき窓口が届けるのが彼の役目で、GHQの窓口が閉まってしまう、というのである。」と書いています<sup>19</sup>。

\* \* \*

探している出版物が、国立国会図書館になく、主要な総合目録や関連の専門図書館の所蔵目録、関係の個人文書にも見当たらなければ、なかなか見つけ出すことはできません。それでも図書であれば、古書店の目録のチェックを続けて、運良く出会える場合もあります。しかし、雑誌・新聞と

なると、そういう出会いも期待薄です。図書に比べ、かさばる一方で、装丁が簡易で人間の心理として捨てやすい雑誌・新聞は、保存されていることが少なく、古書市場に出てくることも少ないのです。

国立国会図書館にない、明治から終戦直後にかけての雑誌や新聞がまとまって見つかったときは、ぜひ、国立国会図書館にご一報ください。誰も見ることのできない幻の資料としないために、読者の方々のご協力をお願いいたします。

(こばやし まさき 利用者サービス部人文課  
すずき ひろむね 利用者サービス部政治史料課  
やまだ としゆき 総務部副部長)

<sup>19</sup> 本田靖春著『我、拗ね者として生涯を閉ず』 講談社 2005  
<請求記号 GK53-H44> p.129

## 国立国会図書館にないとき その4 検索サイトで出てこない・占領期篇

### (1) プランゲ文庫

国立国会図書館は、プランゲ文庫の資料を複製し収集する事業に平成4年度から取り組んでいる。平成24年2月現在、雑誌・新聞のマイクロフィルム（白黒）を東京本館憲政資料室で、児童書のマイクロフィルム（カラー）を国際子ども図書館で閲覧できる。

このうち、雑誌・新聞は、「国立国会図書館サーチ」の簡易検索画面で、タイトル（または著者名、出版者名）のあとに1字あけて「プランゲ文庫」と入力するか、NDL-OPACの詳細検索画面で、タイトル（または著者名、出版者名）に加えて「注記」欄に「プランゲ文庫」と入力することで検索できる。児童書は今のところ検索できない。「リサーチ・ナビ」>「プランゲ文庫児童書コレクション」にリストがある。

プランゲ文庫の雑誌・新聞は、早稲田大学政治経済学部の中本武利教授により構築された「占領期新聞・雑誌記事情報データベース」(<http://m20thdb.jp/>)で記事名、著者名等から検索できる。利用には登録が必要（無料）。

プランゲ文庫の全体は、メリーランド大学図書館のオンライン目録で、ヘボン式ローマ字で検索できる。また、メリーランド大学の「プランゲ文庫児童書デジタルコレクション」では、デジタル化した絵本1600点のうち、約千点の書誌事項と表紙の画像がインターネットを通じて閲覧可能（本文画像へのアクセスは同大学内に制限されている）。

### (2) 沖縄県の出版物

占領期であっても沖縄はGHQ/SCAP（連合国最高司令官総司令部）の管轄ではなかったため、プランゲ文庫には沖縄の出版物が含まれていない。沖縄県立図書館のOPACなどを検索する。

### (3) 特殊コレクション・専門図書館

戦前篇と同様に、探している本の主題を分析し、その主題を多く含む特殊コレクションや専門図書館の目録を調べる。地方の出版物は、その地域の大学、県立または市町村立図書館に残っていることがある。

## 国会分館を詠む

貴族院と衆議院の図書館を前身に、国立国会図書館の創設（1948年）と同時期に誕生した国会分館は、小さいながらも歴史のある、国会議事堂内の図書館です。そんな歴史に思いを馳せつつ（?）、百人一首をもじって国会分館を詠んでみたいと思います。

これやコの 衆も参も つどいては  
読むも探すも 分館の席

国会議事堂の4階にある国会分館は、国会関係者専用の図書館です。中央塔の真下、衆議院と参議院の中間に位置するため、どちらからも来館しやすくなっています。上から見ると「コ」の字型をした閲覧スペースは、読みもの調べもののために利用されています。

足早に <sup>あかじゅうたん</sup>赤絨緞の おとづれて  
新着書棚に 利用者ぞ来る

国会分館は、急ぎの調べものにすばやく対応できるように、基本的な辞書・事典類、国政の課題に関する最新の図書や雑誌、地方紙などを用意しています。毎週更新される「新着図書コーナー」は、お目当ての新刊書をいち早く利用しようと、来館者が赤絨緞の廊下を急いで真っ先に立ち寄る人気のスポットです。

### 参考

これやこの 行くも帰るも 別れては 知るも知らぬも あふ坂の関 蟬丸  
夕されば 門田の稲葉 おとづれて 葦のまる屋に 秋風ぞ吹く 大納言経信  
筑波嶺の 峰より落つる みなのか 恋ぞつもりて 淵となりぬる 陽成院



赤絨緞の廊下の先にある国会分館

震災で 棚より落つる 本の山  
書架ぞ留められ 堅固となりぬる

1年前の東日本大震災では、東京本館と同様に、国会分館の書庫でも多くの本が落下しました。上層階の書庫では、人的被害はなかったものの、一部の書架（書棚）が倒れる被害もありました。書庫は閲覧スペースと吹き抜けでつながった場所にあるため、書棚の固定工事を行い、安全性を高めました。

75年以上の歴史を持つ議事堂内で、このように国会分館はさらなる歴史を刻みながら、今日も新たな一首が生まれているとか、いないとか……。 (国会分館 <sup>わけたちのながまろ</sup>分館長麻呂)

# 本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。ここでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

## ここはじょんでえら

震災を経験した小千谷市十二平集落の道標

十二平集落記録誌編集委員会編 福留邦洋監修

十二平を守る会刊

2010.10 128頁 31cm

<請求記号 EG77-J337>

東日本大震災から1年がたち、集団移転が検討され始めている。しかし、費用負担、移転先、住民の合意の形成など課題は山積している。

本書は、平成16年10月に発生した新潟県中越地震で被災し、集団移転した小千谷市十二平（じょんでえら）集落の記録である。中越地震では震度6強を観測した旧山古志村の被害が大きく報道されたが、この山古志村と十二平地区は、かつては「二十村郷」と呼ばれた同じ地域である。山間にある十二平地区は、死者や重傷者は出なかったものの地震によって11戸の住宅全戸が全壊し、道路も分断され孤立したため、住民はヘリコプターで救助された。その後、避難指示・勧告によって一時帰宅しかできない時期が続き、地震から約5か月後に同じ市内の平地へ集団移転することを集落として決定した。現在、十二平に住民はいないが、植樹などの環境整備、記念碑や屋号看板の設置、集会場の建設などを行い、故郷とつながり続けている。本書の出版もその一環といえる。

本書は主に住民からの聞き取りによって構成されており、地震発生前の暮らし、地震発生から集団移転まで、現在の暮らしの三部構成になっている。第一部である地震発生前の暮らしは、行事や住まい、屋号やマキ（同族集団）などについて述べられており郷土資料としても興味深い。また、地震前の暮らしを知ることによって、移転によって失くしたものの、変わったものがよくわかる。第二部、第三部にあた

る震災から集団移転、現在の暮らしについては、災害時の状況やその後の復興を具体的に知ることができる。現在に関しては、移転した全戸の家族に聞き取りを行い、文字に起こ

している。震災、故郷、移転後の生活などについて、自分たちの感じたことを素直に言葉にしているのが印象的でユーモラスでもある。何代にもわたって暮らしてきた故郷から離れざるを得なくなったことを想像するとやりきれない思いがするが、当事者たちは、もちろん切なさやあきらめを抱きつつも、移転を前向きにとらえていることがわかる。

十二平の集団移転は、強力なリーダー、外部の支援者などによって、コミュニティのつながりを維持している点で成功事例と評価され、東日本大震災からの復興に向けた研究対象にもなっている\*。本書からも集団移転成功のヒントが随所に見受けられる。被害の状況や条件はさまざまであろうが、災害からの復興は、痛みを伴いつつも必ず達成できるとの希望を与えてくれる。それは単に物理的な復興にとどまらず、精神的な復興でもある。

懸命な復興が続く一方で、ボランティアの減少など東日本大震災の風化も懸念されている。災害に対する認識を新たに、復興について考える助けとなる資料である。 (総務部人事課 林 明日香)

\* 林直樹ほか「震災後集団移転の成功要因：新潟県小千谷市十二平の経験に学ぶ」『社会経済研究所ディスカッションペーパー』(11013) 電力中央研究所社会経済研究所 2011 (<http://criepi.denken.or.jp/jp/serc/discussion/download/11013dp.pdf>)





## 千代田図書館蔵 「内務省委託本」関係資料集

千代田区立千代田図書館編・刊  
2011.3 131頁 30cm

<請求記号 UM71-J4>

近代における思想や文学、あるいはジャーナリズムの歴史を顧みようとするとき、検閲はきわめて大きな問題である。検閲制度に関しては、これまでも数多くの研究があるが、運用の実態についての解明はあまり進んでいなかった。研究のための資料が整っていなかったからである。

本書は、平成21・22年の2年間にわたり、東京都の千代田区立千代田図書館が行った同館所蔵の「内務省委託本」に関する調査報告書で、これまで不明だった検閲実態を明るみに出した画期的な資料集である。全体の監修は、出版検閲制度研究の第一人者である浅岡邦雄氏が担当している。平易な解説や豊富な図版のほか、参考文献一覧や、安野一之氏による資料目録等が付されており、充実した内容になっている。

戦前期のわが国では、図書は法律により内務省への2部納本が義務づけられていた。このうち、検閲に使われた原本は、発売頒布を許可された後、昭和初期に旧東京市立図書館の日比谷、駿河台（現・千代田図書館）、深川、京橋の各館に所蔵を委託されることとなった。これが「内務省委託本」である（なお、検閲に用いられなかった残りの1冊は、帝国図書館に交付され、「内務省交付本」と呼ばれて国立国会図書館に引き継がれている）。解説によると、千代田図書館に所蔵が確認されているのは2,360冊で、そのうち約1割の見返しに、検閲官によるコメ

ントが付されているという。この書き込みが、検閲実態解明の手がかりとなる。

書き込みの多くはごく簡潔なものだが、二・二六事件で不慮の死を遂げた高橋是清の遺著『随想録』に、「偉大な

る経世家であり又偉大なる人世の教師」「処世上座右の銘として価値あるものと思料さる」と検閲官が個人的な思いを書き込んだ珍しい例もある。また、「厳密ニ言ヘバ差止違反ナルモ輕微ナルニツキ不問可然哉（不問にしてよいか）」という伺文が付された委託本があるのも見逃せない。通常、検閲というと一字一句を厳格に追いながら問題箇所を摘出していくような作業を想起してしまいがちだが、違反箇所が軽微ならば検閲をパスし、出版が許可された事例も存在していたのである。本書掲載の資料を丁寧に見ていくことで、検閲の実態はさらに明確になっていくだろう。今後検閲のことを調べようとするときに、必読の一冊といえそうである。

（関西館収集整理課 ながお むねのり 長尾 宗典）

※1部1,000円で入手可能。詳細は千代田図書館ホームページ (<http://www.library.chiyoda.tokyo.jp/search/naimushiryō.html>) 参照。



## 国際政策セミナー 「世界経済の動向と 日本の成長戦略」



1月27日、東京本館で標記セミナーを開催し、約200名の参加があった。このセミナーは、調査及び立法考査局の総合調査プロジェクト「技術と文化による日本の再生」の一環として、国際経済学の権威であるリチャード・ボールドウィン氏（ジュネーブ高等国際問題・開発研究所教授）を招へいして行ったものである。

ボールドウィン氏は「21世紀型地域主義を日本のために機能させるには」と題する基調講演で、経済のグローバル化の中で進行する地域主義と日本の戦略について論じた。

引き続き、戸堂康之氏（東京大学大学院新領域創成科学研究科国際協力学専攻教授、国立国会図書館客員調査員）をコーディネーターとし、渡邊頼純氏（慶應義塾大学総合政策学部教授）、服部聡之氏（株式会社エンビズテック代表）、山口広文（専門調査員、調査及び立法考査局総合調査室主任）を交えたパネルディスカッションが行われた。会場からは、日本のTPP（環太平洋経済連携協定）交渉参加問題をめぐって多数の質問があった。

国際政策セミナーの記録は、平成24年度に総合調査の報告の一環として刊行する予定である。

## 平成23年度 書誌調整連絡会議

1月27日、東京本館で「RDA、その動向、構造及び課題整理」と題して平成23年度書誌調整連絡会議を開催した。RDA（Resource Description and Access）は、米国図書館協会等が2010年6月に英米目録規則の後継として刊行した目録規則である。

会議では、研究者等からRDAの構造や関連する国内外の動向について報告があった。その後、国内での適用に向けての課題について意見交換を行った。

会議の概要は、国立国会図書館ホームページ（<http://www.ndl.go.jp/>）>「国立国会図書館について」>「書誌データ作成」>「書誌データの作成および提供」>「書誌調整連絡会議」（<http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/conference.html>）のページに掲載している。

■ 平成23年度  
児童書総合目録  
事業運営会議

2月15日、国際子ども図書館で標記会議を開催した。この会議は、児童書総合目録参加館からの意見を聴取することを目的として毎年開催している。今年度は6機関から7名が参加した。

国立国会図書館からは、児童書総合目録事業のこれまでの経過と新システムへの移行、この1年の活動および今後の計画について報告し、その後「国立国会図書館サーチ」における児童書の検索方法と「国際子ども図書館子どもOPAC」についてデモンストレーションを交えて紹介した。また、今後の協力関係について協議を行い、児童書を一般書と区別して横断的に検索できるよう、従来どおり事業を継続することを確認した。

会議内容の概要は、国際子ども図書館ホームページ>研修・交流>関連機関との連携協力のページに掲載する予定である。

■ おもな人事

<異動>  
※ ( ) 内は前職

平成24年2月1日付け

専門調査員 調査及び立法考査局経済産業調査室付 (関西館長) 山口和之

## お知らせ

### ■ 平成 24 年度 国立国会図書館 職員採用試験

平成 24 年度の職員採用試験を次のとおり実施します。

○職務内容 調査業務・司書業務・一般事務等の館務

総合職試験：政策の企画立案に係る高い能力を有するかどうかを重視して行う職員の採用試験

一般職試験（大卒程度試験）：的確な事務処理に係る能力を有するかどうかを重視して行う職員の採用試験

○勤務地 東京都（東京本館・国際子ども図書館）・京都府（関西館）  
（転勤があります）

○試験の概要（詳細は試験案内またはホームページで必ずご確認ください）

| 種類       | 大学卒業程度   |  |
|----------|--|--|
|          | 総合職試験  | 一般職試験（大卒程度試験）  |
| 受験資格の概要* | 昭和58年4月2日～平成4年4月1日生まれ（平成4年4月2日以降生まれでも、大学卒業または卒業見込みであれば可） | 昭和58年4月2日～平成4年4月1日生まれ（平成4年4月2日以降生まれでも、大学・短大・高専卒業または卒業見込みであれば可） |
| 受付期間     | 平成24年4月9日（月）～4月26日（木）（消印有効）                              |  |
| 1次試験     | 平成24年5月26日（土）  |  |
| 会場       | 1次試験は東京および京都で行います。2次試験以降は東京のみです。                         |  |

\*日本の国籍をお持ちでない方、国会職員法第2条の規定により国会職員となることができない方は受験できません。

○受験申込書および試験案内の入手方法

東京本館および関西館で配布します。

郵便で請求される際は、封筒の表に「総合職試験・一般職試験（大卒程度試験）請求」と朱書き、返信用封筒（角型2号）を同封してください。返信用封筒にはあて先を明記し、切手（140円）を貼ってください（総合職試験と一般職試験（大卒程度試験）は共通の書式です）。

○お問い合わせ・資料請求先

国立国会図書館 総務部 人事課 任用係

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1 電話 03(3506)3315(直通)

URL <http://www.ndl.go.jp/jp/employ/index.html>

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 採用情報



## お知らせ

### ■ 平成24年度 図書館情報学実習生を 募集します

大学（短大・大学院含む）において、図書館での実習を含む科目を履修する学生を対象に、実習生を募集します。

#### ○応募資格

- ・大学等（短大・大学院を含む）に在籍する学生のうち、図書館における実習を含む科目を履修する方。
- ・大学等（短大・大学院を含む）の長から推薦を受けた方。
- ・実習日までに、実習期間中に発生した事故等に関する保険に加入できる方。

#### ○応募方法

大学等の図書館情報学課程・司書課程等担当教員がとりまとめ、学校単位でお申し込みください。実習希望者本人からの申込みは受け付けておりません。

#### ○募集期間

3月1日（木）～4月19日（木）

#### ○実習期間

東京本館 8月20日（月）～8月31日（金）の土曜日、日曜日を除く10日間

関西館 9月6日（木）～9月13日（木）の土曜日、日曜日を除く6日間

国際子ども図書館 9月4日（火）～9月13日（木）の日曜日を除く9日間

#### ○お問い合わせ・お申し込み先

東京本館、関西館で行う実習

国立国会図書館 関西館 図書館協力課 研修交流係

〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3 電話 0774(98)1444(直通)

国際子ども図書館で行う実習

国立国会図書館 国際子ども図書館 企画協力課 協力係

〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49 電話 03(3827)2053(代表)

※詳細は、必ず国立国会図書館ホームページでご確認ください。

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)

>ニュース (2012年3月1日)

URL [http://www.ndl.go.jp/jp/news/news\\_index.html](http://www.ndl.go.jp/jp/news/news_index.html)

## お知らせ

### ■ 本の万華鏡（第9回） 「江戸の花見 —花爛漫—」



広重「吉原仲之町」  
（「東都三十六景」より）

桜が咲く季節になると、どこか浮き立つような気持ちになりませんか？ ニュースでは桜の開花が春のたよりとして報じられ、花見にはたくさんの人々が繰り出します。花にはいろいろとあるのに、花見といえばまず桜が思い浮かびます。

花見の風習が庶民にまで広まったのは、江戸時代になってからだといわれています。現代の私たちと同じように、江戸の人々も花見を楽しんでいましたが、現代とは違った面も多くありました。現代にはない花見の名所があり、桜の品種も異なっていました。また、江戸の庶民にとって花見は、前の晩から支度をして1日ばかりで出かける、一大イベントでした。

3月22日から提供を開始するミニ電子展示「本の万華鏡」第9回では、江戸時代の桜と花見について取り上げます。第1章では、錦絵などから江戸やその近郊の華やかな桜の名所を、第2章では、園芸書や画譜により様々な品種の桜を、第3章では、花見の場での風俗や花見の楽しみ方をご紹介します。

○URL <http://rnavi.ndl.go.jp/kaleido/>

### ■ 新刊案内 国立国会図書館の 編集・刊行物



レファレンス 733号 A4 118頁 月刊 1,050円 発売 日本図書館協会  
〈小特集：生活保障〉

- ・カナダの公的年金制度の現状と財政の展望
- ・ドイツの最低賃金規制
- ・公契約法と公契約条例
- ・社会教育施設への指定管理者制度導入に関わる問題点と今後の課題
- ・検察審査会制度の概要と課題

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03 (3523) 0812

## CONTENTS

- 02 <Book of the month - from NDL collections>  
*Chunori sugoroku* : flying kabuki actors
- 04 French fables meet ukiyo-e  
illustrated books published by Pierre Barboutau / Aki Takayama
- 13 Strolling in the forest of books (8)  
Books born out of the Great East Japan Earthquake
- 16 Finding aids  
how to use the NDL Search and the NDL-OPAC
- 18 NDL website now renewed
- 20 Books not found in the NDL  
publications from pre-war to the occupation period
- 29 <Tidbits of information on NDL>  
Composing waka poems about the Detached  
Library in the Diet
- 30 <Books not commercially available>  
○ *Koko wa Jondera : shinsai o keikenshita  
Ojiyashi Junidaira shuraku no michishirube*  
○ *Chiyoda Toshokanzo "Naimusho itakubon"  
kankei shiryoshu*
- 32 <NDL News>  
○ International Policy Seminar "Global Economy  
and Growth Strategy of Japan: Policy  
Implications after the Earthquake"  
○ Conference on bibliographic control FY2011  
○ Operation meeting of the Union Catalog  
Database of Children's Literature Project in  
FY2011  
○ Changes in personnel
- 34 <Announcements>  
○ Announcement of the employment examinations  
for FY2012  
○ NDL accepts applications for internship on  
library and information science FY2012  
○ Kaleidoscope of Books (9) "Parties under the  
Cherry Blossoms in Edo"  
○ Book notice - Publications from NDL

国立国会図書館月報

平成24年3月号 (No.612)

平成24年3月20日発行 定価525円  
(本体500円)

発行所 国立国会図書館  
編集責任者 山田敏之  
〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話 03 (3581) 2331 (代表)  
FAX 03 (3597) 5617  
E-mail geppo@ndl.go.jp

発売 社団法人日本図書館協会  
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14  
電話 03 (3523) 0812 (販売)  
FAX 03 (3523) 0842  
E-mail hanbai@jla.or.jp

印刷所 株式会社正文社印刷所

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 「刊行物」 > 「国立国会図書館月報」でご覧いただけます。



L'hirondelle et les petits oiseaux.

(燕と小鳥たち 河鍋暁翠画)

*Choix de Fables de La Fontaine*, illustrées par un groupe des meilleurs artistes de Tokio, sous la direction de P. Barboutau, tome 1.

Tokio : Imprimerie de Tsoukidji-Tokio, 1894.

<請求記号 W142-B2>

## 国立国会図書館月報

平成24年3月20日発行 (毎月1回20日発行)  
(3月号通巻612号)

発売：社団法人 日本図書館協会 定価 525 円 (本体 500 円)